

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定

SCSI設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。また、印のマニュアルは、省スペース型をご利用の場合、電子化マニュアルをご覧になれます。詳しくは『はじめにお読みください』6. マニュアルの使用法でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows 98のセットアップ

→ 『はじめにお読みください』

本機を安全に使うための情報

→ 『安全にお使いいただくために』

Windows 98の基礎知識、基本的な操作方法

→ 『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)

→ 『活用ガイド ハードウェア編』

MA46H/Sのシステム設定(BIOS設定)

→ 『本機をお使いの方へ』

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ

→ 『活用ガイド ソフトウェア編』

トラブル解決方法

→ 『活用ガイド ソフトウェア編』

再セットアップ方法

→ 『活用ガイド 再セットアップ編』

本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明

→ 『ハードウェア拡張ガイド』

ATコマンドについて(FAXモデムボード搭載モデルの場合)

→ 『ATコマンド』電子化マニュアル)

ディスプレイの利用方法

→ 液晶ディスプレイ、CRTディスプレイがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルにより異なります。

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法

→ Office 2000 Personal、Office 2000 Professional、一太郎10・花子10バック& 1-2-3 2000があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

ビジネスでお使いになるお客様向けのメンテナンスとサポート情報の紹介

→ 『メンテナンス&サポートのご案内』

パソコンに関するNECの相談窓口や受講施設、故障時のサービス網の紹介

→ 『NEC PC あんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>

はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windows 98の基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windows 98もしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがコンピュータにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX シリーズ Mate NX
MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、
MA50T/C
MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C
MA46H/Z、MA46H/L
MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/S
MA60J/M、MA50J/M
(Windows 98インストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PART4 付録」をご覧ください。

1999年 10月 初版

2000年 1月 二版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

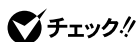
人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。



用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。



メモ

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

このマニュアルでは、機種ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。



省スペース型



デスクトップ型



ミニタワー型

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C MA46H/Z、MA46H/L MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/S MA60J/M、MA50J/M (Windows 98インストールモデル) * 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、 MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C MA46H/Z、MA46H/L MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/S MA60J/M、MA50J/Mを指します。
省スペース型	次の機種を指します。 MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、 MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、 MA46H/L
デスクトップ型	次の機種を指します。 MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/S
ミニタワー型	次の機種を指します。 MA60J/M、MA50J/M
NetPCモデル	フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブがない状態でご購入いただいたモデルです。次の機種を指します。 MA46H/Z
Securityモデル	指紋認証ユニットなどが添付されたモデルです。 次の機種を指します。 MA50T/A
ディスプレイセットモデル	CRTディスプレイまたは液晶ディスプレイとセットでご購入いただいたモデルです。
アプリケーションなしモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Personalモデル	Office 2000 Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office 2000 Professionalモデル	Office 2000 Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。

一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 【 】 『 』	一太郎10・花子10パックおよびロータス1-2-3 2000がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。 【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 『 』で囲んである文字はマニュアルの名称を指します。
--	--

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional(Microsoft® Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft PowerPoint® 2000、Microsoft Access 2000、Microsoft Publisher 2000、Microsoft / Shogakukan Bookshelf® Basic)
一太郎10・花子10パック	一太郎10・花子10パック(一太郎10、花子10、三四郎9、ATOK13)
1-2-3 2000	ロータス1-2-3 2000
スーパーディスク	SuperDisk™
Zip	Zip™

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・このマニュアルに記載のイラストおよび画面は、実際のものとは異なることがあります。

技術基準等適合認定について

この装置は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく、端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次の通りです。

認証機器名：SF-DJP-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」または「MDMDJPNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS-C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブ、またはCD-RWドライブが搭載されています。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6)海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows 98および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみで使用ください。
- (8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9)ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft, MS, MS-DOS, Windows, Active Movie, NetMeeting, Outlook, PowerPoint, Bookshelf, Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」花子「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10パック」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。

1-2-3は、Lotus Development Corporationの商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

AutoCrypt, Emergency Access, RC4ならびにGenuine RSA Encryption and Design, Interlocking KeyDesignのロゴマークは、米国Security Dynamics社の子会社である米国RSA Data Security社の商標または登録商標です。RSA SecurPCおよびSecurity Dynamicsは、米国Security Dynamics社の商標または登録商標です。

Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

YAMAHAは、ヤマハ株式会社の登録商標です。

Savage4は、S3社の商標です。

pcANYWHERE32およびpcAnywhere は Symantec Corporation の米国における登録商標です。

Intel, Pentium, CeleronおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における商標および登録商標です。

Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions) は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジーを使用しています。

SCSI SELECT™は、Adaptec, Inc. の登録商標です。

PS/2はBM社が所有している商標です。

K56flexは、Lucent Technologies と CONEXANT SYSTEMSの商標です。

SuperDisk, SuperDisk ロゴは、米国イメージョン社の商標です。

Omega, Zipおよびそれらのロゴは、米国Omega社の商標です。

PrebootManagerは、Phoenix Technologies Ltdの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 1999, 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。本製品の輸出については、外国為替および外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART4までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック!!)、用語(◆用語◆)、メモ(メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

MA46H/Sをご利用の場合は、『本機をお使いの方へ』をご覧ください。

PART3 SCSI 設定

Ultra SCSI インタフェースポート(Wide 対応)を搭載しているモデルのユーティリティ「SCSI SELECT」のSCSI の設定方法について説明しています。

PART4 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載しております。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	8
このマニュアルの構成・読み方	9
目次(このページです)	10
索引	14

PART

1

本体の構成各部	19
各部の名称	20
本体正面	20
本体背面	26
電 源	32
電源の状態と操作方法	32
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)	34
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)	35
電源の自動操作	39
電源の管理について(APMモード/ACPIモード)	41
キーボード	49
添付されるキーボードの種類	49
使用上の注意	49
USB109キーボードとPS/2 109キーボード	50
USB小型キーボード	52
USB98配列キーボード	54
日本語入力	55
USB接続キーボードの使用上の注意	57
マウス	58
マウスについて	58
ディスプレイ	59
表示できる解像度と表示色	59
ディスプレイの省電力機能	61
適合するディスプレイを使う	62
ハードディスクドライブ	63
使用上の注意	63
ドライブ番号の割り当て	65

スキャンディスクの操作手順	67
フロッピーディスクドライブ	69
使用できるフロッピーディスク	69
フロッピーディスクの内容の保護	70
スーパーディスクドライブ	71
使用できるディスク	71
ディスク内容の保護	72
ディスクのフォーマット	72
非常時のディスクの取り出し	73
Zipドライブ	74
使用できるディスクについて	74
ディスク内容の保護	75
ディスクのフォーマット	75
非常時のディスクの取り出し	76
CD-ROMドライブ	77
再生できるCDの種類	77
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)	78
非常時のディスクの取り出し	79
CD-RWドライブ	80
再生できるCDの種類	80
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット	80
非常時のディスクの取り出し	81
サウンド機能	82
音量の調節	82
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	83
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続	83
LANの設定	84
ネットワークパスワードの変更について	85
FAXモデムボード	87
FAXモデムボードについて	87
FAXモデムボードを使用するときの注意	87
Mate NXセキュリティ/マネジメント機能	91
セキュリティ/マネジメント機能の概要	91

セキュリティ機能	91
運用管理機能	94
障害管理機能	96

システム設定 99

BIOS セットアップメニューについて	100
BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面	100
日本語のメニューを表示する	100
BIOSセットアップメニューの終了	101
工場出荷時の設定値に戻す	101
メインの設定	103
メインの設定	103
詳細の設定	106
詳細の設定	106
セキュリティの設定	111
セキュリティの設定	111
パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)	115
省電力の設定	116
省電力管理	116
起動の設定	120
電源の設定	120
起動順位の設定	121

SCSI設定 123

SCSI SELECTについて	124
SCSI SELECTでの設定が必要な場合	124
SCSI SELECTを使用するときの注意	124
SCSI SELECTでの設定項目	125
SCSI SELECTの設定項目一覧と初期設定	125
SCSI SELECTの画面の説明	126
SCSI SELECTの構造	127
各画面の説明	128

付 録	149
機能一覧	150
型番の読み方	150
仕様一覧	150
割り込みレベル・DMAチャンネル	166
本機のお手入れ	167
マウスのクリーニング	168
スーパーディスクドライブのクリーニング	169

索引

ページ太字：説明や作業のあるページを指します。

ページ細字：図や文章に出てくるページを指します。

英数字

100BASE-TX	83	DMAチャンネル	166
100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ ... 29, 31		DMIイベントログ	110
100Mbpsネットワーク接続ランプ ... 29		DPMS	61
109キーボード	50	ECC機能	98
10BASE-T	83	FAT16	74
10Mbpsネットワーク接続ランプ ... 29		FAX通信機能	87
3.5インチフロッピーディスクドライブ ... 22		FAXモデムによる電源の自動操作 ... 40	
98配列キーボード	54	FAXモデムボード	28, 87
ACPIモード	41	FAXモデムボード機能仕様	165
AC電源コネクタ	28	I/Oロック	93
AC投入	120	IDEデバイス	119
APMモード	41	IEC825	7
BIOS LOCK	91	IRQ	106
BIOSセットアップメニュー	100	JIS	7
BIOSリビジョン	105	LANDesk(R)Service	110
Caps Lockランプ	50, 52	LANの設定	84
CD-ROM	77	LANボード	28
CD-ROMアクセスランプ	24	LANボード機能仕様	164
CD-ROMドライブ	23, 77	MIDI/Joystickコネクタ	31
CD-RWアクセスランプ	25	MS-IME	56
CD-RWドライブ	23, 80	NetPC	5
DATユニット	137	Num Lockランプ	50, 52
DFP	62	Nキーロールオーバー	49
		OFF state Alert II	97
		PC-11-1988	7

PC-9800	30, 70
PC-M-SCUWS2	124
PCIスロット	30
PCI設定	106
PCIバス監視	119
PK-CA101	30
PK-CA102	30
PK-KB009	57
PK-MC201	57
PK-MC202	57
PK-SM001	92
PK-SM002	92
PK-SM003	92
PK-UP001	57
PK-UP004	57
PME	113
Preboot Management	96, 110
PS/2接続キーボードコネクタ	31
PS/2接続マウスコネクタ	31
RS-232C変換アダプタ	30
Scroll Lockランプ	50, 52
SCSI SELECT	124, 125
SCSIインタフェースボード	31
Ultra SCSI	124
Ultra SCSIインタフェースボード (Wide対応)	124
USBコネクタ	25, 28
USBハブ	57
VCCI	7
VESA	61, 62

Windowsキー	51, 53, 55
Zipドライブ	25, 74

ア行

アース端子	30
アナログRGBコネクタ	29
アプリケーションキー	51, 53, 55
イラスト	6
インサートキー	51, 53, 55
ウイルス	98, 113
ウィンドウアクセラレータ	59
運用管理機能	94
液晶ディスプレイ	59, 61
エクスファークー	55
エスケープキー	50, 52, 55
エヌファークー	55
エンターキー	51, 53
エンドキー	51, 53
エンドユーザ管理	94
オルトキー	51, 53
音量の調節	82

カ行

カーソル移動キー	51, 53
カーソルキー	55
解像度	59
書き込み禁止	70, 72, 75
拡張メモリ	105
カタカナひらがな/ローマ字キー ...	51, 53
型番の読み方	150

かなキー	54	サスペンド	62
かなキーランプ	54	資源管理	97
カバーオープン	113	時刻指定	118
カバーセンサ	94	自己診断	105
カバーをロック	93	システムスイッチ	117
画面	6	システムメモリ	105
キーボード	49	自動サスペンド	117
キーボード機能	104	シフトキー	51, 52, 55
キーロールオーバー	49	周辺機器設定	107
起動順位	121	瞬時電圧低下	7
キャッシュメモリ	107	障害管理機能	96
キャプスキー	54	状態監視	98
キャプスキーランプ	54	省電力	116
キャプスロック/英数キー	50, 52	省電力機能	61
筐体ロック	30, 93	初期化	106
緊急イジェクトホール	76	シリアルコネクタ	30
クイックブート	109	スーパーディスクドライブ	22, 25, 71
クライアントモニタリング	97	スーパバイザパスワード	111
グラフキー	55	スキップセクタ	64
クリーニングキット	169	スキャンディスク	67
工場出荷時の設定値	101	スクロールボタン	58
高調波電流規制	7	スクロールロックキー	50, 52
小型キーボード	52	スタビライザ	25
コピーキー	54	スタンバイ	62
コントロールキー	51, 52, 55	スタンバイ状態	32
コンプリートオフ	62	ストップキー	55
		スペースキー	51, 53, 55
		スマートカード	92
		セカンダリスレーブ	104
		セカンダリマスタ	104

サ行

サウンド	109
サウンド機能	82

セキュリティモード	112
ソフトウェアパワーオフ機能	98

夕行

タイマ	39
タイムアウト	117
タブキー	50, 52, 55
通風孔	30
データ通信機能	87
ディスクアクセスランプ	22
ディスクイジェクトボタン	22
ディスクトレイイジェクトボタン	25
ディスプレイ	59
適用電話回線	87
デジタルRGBコネクタ	29
デフォルト値	101
デリートキー	51, 53, 55
電源	32, 120
電源スイッチ	22
電源ランプ	22
電波障害	7
電話回線用モジュラーコネクタ	29
電話機用モジュラーコネクタ	29
盗難防止	30
ドライブ番号	65
取り外し可能なデバイス	121

ナ行

内蔵スピーカボリューム	23
日本語入力	55

ニューメリックロックキー ...	51, 53
認証番号	7
ネットワークアクセスランプ	31
ネットワーク起動	112
ネットワーク通信/接続ランプ	29
ネットワークブート	95

ハ行

ハードディスクアクセスランプ ...	22
ハードディスクドライブ	63
ハイパワーデバイス	57
バケット	95
パスワード	85, 112
バックアップ	63, 113
バックスペースキー	51, 53, 55
ハブ	83
パラレルコネクタ	30
半角/全角/漢字キー	50, 52
表示色	59
ファイルベイ	25
ファイルベイカバー	25
ファンクションキー	50, 52, 54
フォーマット	69, 71, 72, 74, 75
復帰	33
プライマリスレーブ	104
プライマリマスタ	104
プラグ&プレイO/S	106
不良セクタ	64
プリンタインターフェース変換アダプタ ...	30
プリントスクリーンキー	50, 52

フロッピーディスクドライブ	69
フロッピアクセス	112
フロントマスク	25
ページアップキー	51, 53
ページダウンキー	51, 53
ヘッドホン端子	23, 24
ヘッドホンボリューム	24
ヘルプキー	55
変換キー	51, 53
ポーズ/ブレークキー	50, 52
ホームキー	51, 53
ホームクリアキー	55
保守用FDDコネクタ	31
本機	5
本機のお手入れ	167
本体	5

マ行

マイクロホン端子	23, 28
マウス	58
マネジメント機能	91
マルチポートリピータ	83
ミニDIN6ピン	31
ミニジャック	28
無変換キー	51, 53
メンテナンスウィザード	68
モデムリング	118

ヤ行

ユーザパスワード	111
----------	-----

輸出	8
----	---

ラ行

ライトプロテクト	70, 72
ライトプロテクトノッチ	70, 72
ライン出力端子	28
ライン入力端子	28
リード/ライトプロテクト	75
リターンキー	55
リフレッシュレート	59
リモートコントロール	96
リモートパワーオン機能	40, 95
リンクケーブルの接続	83
ルーフカバーオープン検知	94
レーザ安全基準	7
レジューム	118
ローカルバスIDEアダプタ	108
ローパスワードデバイス	57
ロールアップキー	55
ロールダウンキー	55
漏洩電流自主規制	7

ワ行

割り込みレベル	166
---------	-----

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称	20
電 源	32
キーボード	49
マウス	58
ディスプレイ	59
ハードディスクドライブ	63
フロッピーディスクドライブ	69
スーパーディスクドライブ	71
Zip ドライブ	74
CD-ROM ドライブ	77
CD-RW ドライブ	80
サウンド機能	82
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	83
FAXモデムボード	87
Mate NXセキュリティ/マネジメント機能	91

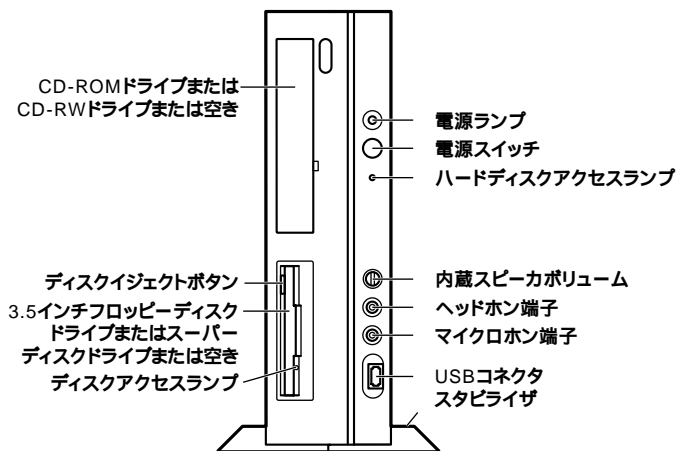
各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面

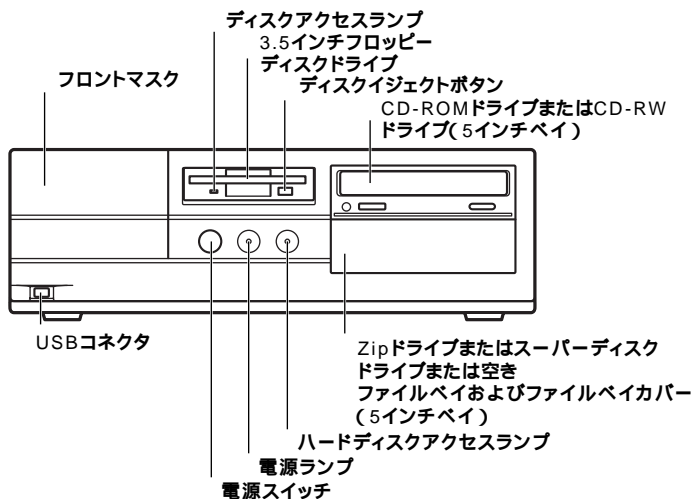


MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/Lの場合

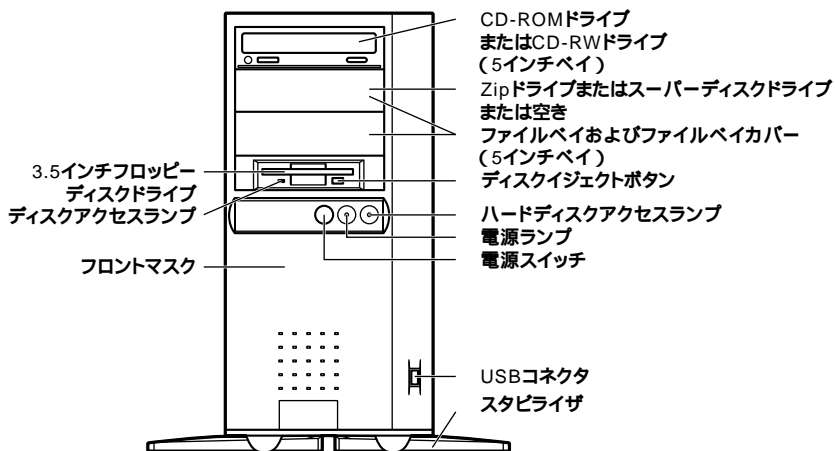




MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/Sの場合



MA60J/M、MA50J/Mの場合



電源スイッチ(⏻)

本体の電源の状態を変更(入れる/切るとスタンバイ/スタンバイから復帰)するスイッチです。「電源」(P.32)

電源ランプ(Ⓛ)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。「電源」(P.32)

ハードディスクアクセスランプ(Ⓛ)

IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。

工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、追加ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)、CD-ROM/CD-RWドライブ(セカンダリマスタ)、スーパーディスクドライブ(セカンダリスレーブ)、Zipドライブ(セカンダリスレーブ)があります。なお、CD-ROM/CD-RWドライブ、スーパーディスクドライブの種類によっては、点灯しないことがあります。

「ハードディスクドライブ」(P.63)、「スーパーディスクドライブ」(P.71)、「Zipドライブ」(P.74)、「CD-ROMドライブ」(P.77)、「CD-RWドライブ」(P.80)



チェック!!

ハードディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

3.5インチフロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。

「フロッピーディスクドライブ」(P.69)

さらにスーパーディスクドライブでは、スーパーディスクに大容量のデータを書き込むことができます。

「スーパーディスクドライブ」(P.71)

NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクやスーパーディスクを取り出します。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブが動作しているときに点灯します。

- ☑ **チェック!!** ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを押ししたり、ディスクイジェクトボタンを押ししたりしてフロッピーディスクやスーパーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。



ヘッドホン端子(○)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。



内蔵スピーカボリューム(🔊)

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。「サウンド機能」(P.82)



マイクロホン端子(🎤)

ミニプラグのマイクロホンを接続します。「サウンド機能」(P.82)

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブまたは空き

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。

「CD-ROMドライブ」(P.77)

さらにCD-RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。「CD-RWドライブ」(P.80)

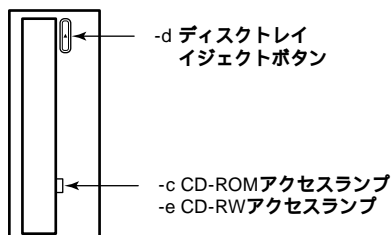
CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを取り外して、他のファイルベイク用内蔵機器に交換することができます。『ハードウェア拡張ガイド』



省スペース型の場合

CD-ROMドライブおよびCD-RWドライブ拡大図

NetPCモデルの場合は、どちらも搭載されていません。

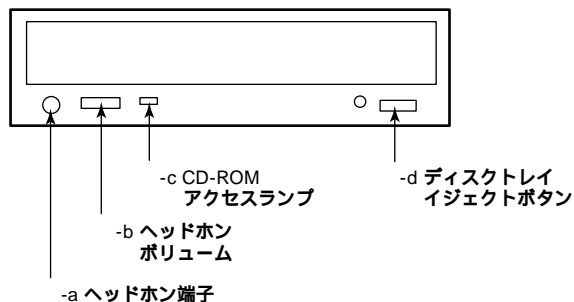




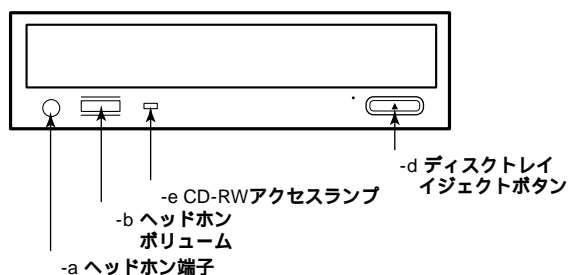
デスクトップ型、ミニタワー型の場合

CD-ROMドライブ拡大図

機種によってボタン、ランプなどの位置が異なる場合があります。



CD-RWドライブ拡大図



-a ヘッドホン端子()

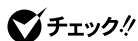
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽CDの再生音だけです。

-b ヘッドホンボリューム

CD用ヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。

-c CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。



チェック!

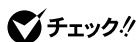
CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

-d ディスクトレイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

-e CD-RWアクセスランプ

CD-RWドライブが動作しているときに点灯します。

**チェック!!**

CD-RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

USBコネクタ(・🔌)

USB機器を接続します。「キーボード」(P.49)



ファイルベイおよびファイルベイカバー

ファイルベイ用内蔵機器を取り付けます。ファイルベイにはサイズの違いにより、3.5インチベイ、5インチベイの2種類があります。

ファイルベイに、リムーバブルメディア用の内蔵機器を取り付けるときには、このファイルベイカバーを取り外し、別売のファイルベイカバーを取り付けます。

**参照**

本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

Zipドライブまたはスーパーディスクドライブまたは空き

Zipドライブは、Zipディスクに大容量のデータを読み書きすることができます。「Zipドライブ」(P.74)

スーパーディスクドライブは、3.5インチフロッピーディスクおよびスーパーディスクに読み書きすることができます。

「スーパーディスクドライブ」(P.71)

フロントマスク

本体前面のカバーです。



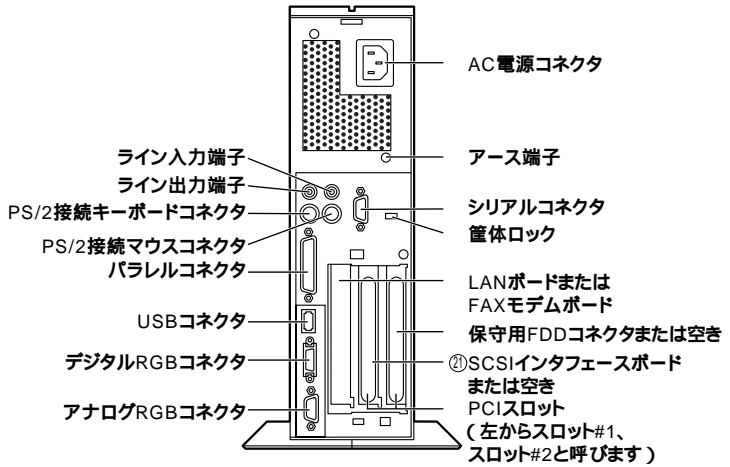
スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

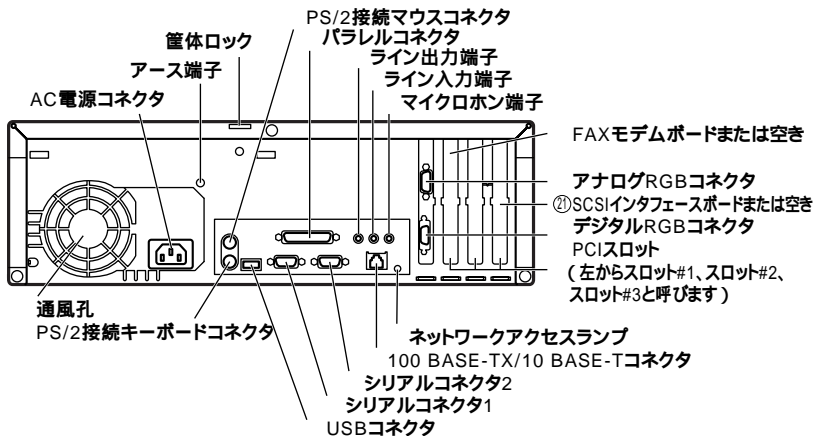
本体背面



MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、
MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/Lの場合

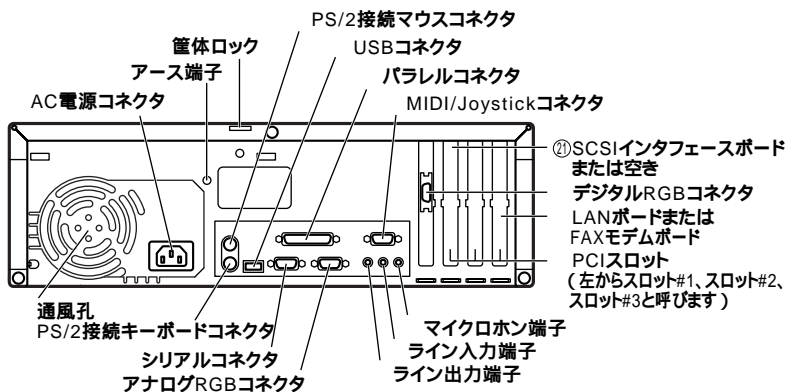


MA70J/S、MA55J/S、MA50J/Sの場合

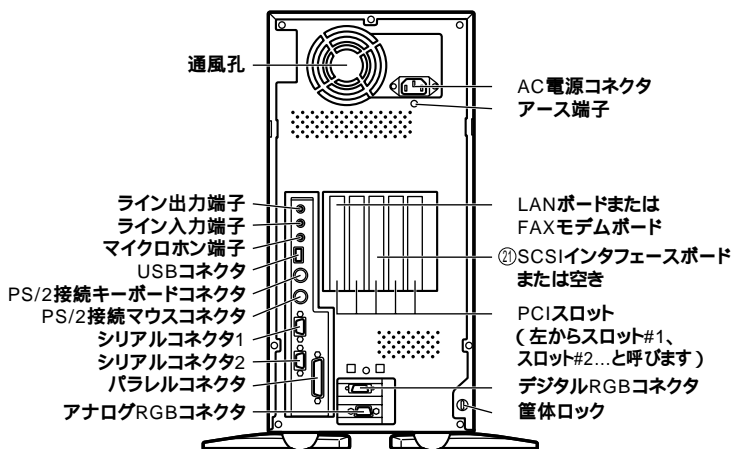




MA46H/Sの場合



MA60J/M、MA50J/Mの場合



AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。添付の電源ケーブルを接続します。

USBコネクタ()

USB機器を接続します。「キーボード」(P.49)



マイクロホン端子(ミニジャック) ()

市販のマイクロホンを接続します。

ライン入力端子(ミニジャック) ()

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

ライン出力端子(ミニジャック) ()

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

LANボードまたはFAXモデムボードまたは空き

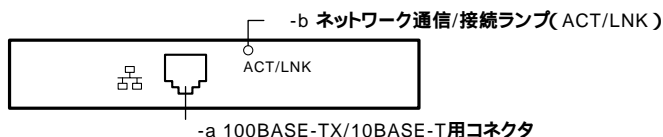
LANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.83)

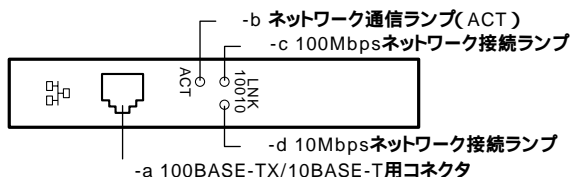
FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXの送受信などを行うことができます。「FAXモデムボード」(P.87)

LANボード拡大図

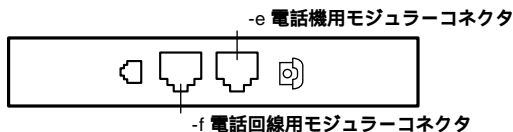
MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA60J/M、MA50J/M



MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/S



FAXモデムボード拡大図



-a 100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(□)

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

-b ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LNK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の見込み/書き込みとは限りません。

-c 100Mbpsネットワーク接続ランプ(LNK 100)

100Mbpsでネットワークが接続されていて、ハブ(マルチポートリピータなど)からリンクパルスを受信すると点灯します。

-d 10Mbpsネットワーク接続ランプ(LNK 10)

10Mbpsでネットワークが接続されていて、ハブ(マルチポートリピータなど)からリンクパルスを受信すると点灯します。

-e 電話機用モジュラーコネクタ(□)

電話機を接続します。

-f 電話回線用モジュラーコネクタ(□)

電話回線を接続します。

アナログRGBコネクタ(□)

アナログインタフェースのディスプレイを接続します。

「ディスプレイ」(P.59)

デジタルRGBコネクタ(□)

デジタルインタフェースのディスプレイを接続します。

「ディスプレイ」(P.59)



チェック!

アナログRGBコネクタとデジタルRGBコネクタは、同時に利用できません。

パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

- ☑ **チェック!**
- ・PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。
 - ・パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。

シリアルコネクタ1,2(,)またはシリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。Securityモデルの場合、指紋認証ユニット(シリアル)を接続します。

- ☑ **チェック!**
- ・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
 - ・RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用できます。なお、MA46H/Sの場合はRS-232C変換アダプタは利用できません。
 - ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。また、隣り合ったコネクタに同時に変換アダプタを接続すると、変換アダプタ同士がぶつかり合って接続できない場合があります。

筐体ロック()

市販のロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」(P.91)

アース端子()

アース線を接続します。

通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

PCIスロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入するスロットです。モデルによっては、LANボード、FAXモデムボード、SCSIインタフェースボードなどが挿入されています。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.83) 「FAXモデムボード」(P.87) 「PART3 SCSI設定」

参照▶ 本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2 109キーボードのモデルでは、PS/2 109キーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。「キーボード」(P.49)

PS/2接続マウスコネクタ()

PS/2 109キーボードのモデルでは、マウス(ミニDIN6ピン)を接続します。Securityモデルの場合、指紋認証ユニット(シリアル)を接続します。「マウス」(P.58)



MA46H/Z

保守用FDDコネクタまたは空き

NetPCモデルの場合、再セットアップするために別売の外付けのフロッピーディスクドライブを接続します。



MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S

ネットワークアクセスランプ

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点灯します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。



MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S

100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ

別売の専用ケーブル(リンクケーブル)を使って、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続します。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.83)



MA46H/S

MIDI/Joystickコネクタ

MIDI楽器やジョイスティックなどの機器を接続します。このコネクタにはディスプレイを絶対に接続しないでください。発火の原因になります。

②1 SCSIインタフェースボードまたは空き

Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)が内蔵されたモデルは、SCSIインタフェースを持つ機器と接続できます。

「PART3 SCSI設定」、『ハードウェア拡張ガイド』

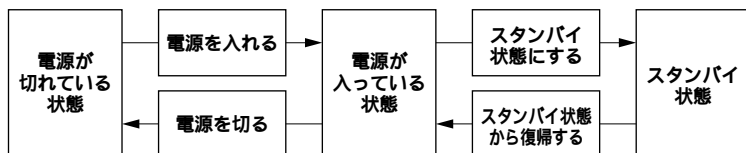
電源

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」の3つの状態があります。



本機では休止状態はサポートしていません。

電源が切れている状態

Windowsを終了するなどして本体の使用を終了している状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
入っている	緑色に点灯する	表示される	緑色に点灯する
切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯
スタンバイ	オレンジ色に点灯する	表示されない	オレンジ色に点灯

使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源を切る

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windowsの終了メニューから「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」ボタンを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windowsの終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンを押す
「コントロールパネル」「電源の管理」の「システムスタンバイ」で設定する
BIOSセットアップメニューで「自動サスペンドタイムアウト」を設定する
Timer-NXを利用する

スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

- 1 フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる
- 3 本体の電源スイッチを押す

✔ **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBに増設した場合、約4秒かかります。

電源を切る

✔ **チェック!!** 電源投入後、Windows 98の起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」による方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック
- 3 「電源を切れる状態にする」をクリック
- 4 「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。
- 5 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

電源スイッチによる方法

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 電源スイッチを押す
「Windowsを終了します。よろしいですか?OK/キャンセル」と表示されます。

△注意

電源スイッチを押して電源を切る場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

- 3 「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

メモ

ソフトウェアのエラーなどで、Windows 98の操作ができなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』PART3 「トラブル解決Q&A」をご覧ください。

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ/スタンバイからの復帰を行うには、システムスイッチを変更する必要があります。

参照 システムスイッチの変更 「PART2 システム設定」『省電力の設定』(P.116) MA46H/Sの場合は『本機をお使いの方へ』の「Power Management Setupの設定」

チェック!! スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔を空けて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の手順があります。

「スタート」ボタン 「Windowsの終了」による方法

- 1 「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリックし、「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠注意

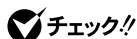
電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の2通りの手順があります。

入力デバイスによる方法

- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。



チェック!

電源の管理のモードがACPIモードの場合、およびデスクトップ型およびミニタワー型のPS/2 109キーボード、マウスモデルの場合は、スタンバイ状態から復帰させることはできません。

電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

△注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

スタンバイ機能が使用できないとき

- ・使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ機能を使用しないでください。
- ・使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態からの復帰ができないことがあります。
- ・システム変更作業(ドライバの設定や、プリンタの追加など)の途中でスタンバイ状態になった場合には、スタンバイ状態から復帰しても正常に動作しないことがあります。デバイスマネージャ表示中やハードウェアウィザード実行中などのシステム変更の途中でスタンバイ状態にならないようご注意ください。
- ・FAXモデムを使って通信中のときは、スタンバイ機能が使用できない場合があります。この場合は、通信ソフトウェアを終了してからスタンバイ状態にしてください。

スタンバイ内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは失われます。

- ・電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- ・停電が起きたとき
- ・電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示に従ってください。

スタンバイ状態からの復帰が保証されない場合

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクを取り出したり、交換したとき
- ・ CD-ROMなどを取り出したり、交換したとき
- ・ PCカードの抜き差しをするなど、本機の環境を変更したとき
- ・ スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にするときに保存された作業中のデータは保証されません。

- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中
- ・ Windows 98の起動処理中、終了処理中
- ・ 通信用ソフトウェアを実行中
- ・ モデム/LANなどを使って通信中のとき
- ・ ネットワークに接続しているとき
- ・ 本機にNEC製キーボード以外のキーボードを接続しているとき

スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ スタンバイ内容を復元できない
- ・ 電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

その他の注意

- ・ 通信ソフトウェアを使用中の場合は、通信ソフトウェアを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。従って、ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときに、データが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを実行する場合は、システム管理者に確認の上、スタンバイ機能を使用してください。
- ・ ネットワークの設定がTCP/IPでDHCPサーバーを使用する設定になっていると、起動時やスタンバイ状態から復帰の際に、通常より20秒ほど時間がかかることがあります。このような場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』PART3 トラブル解決Q&Aの「電源を入れたが...」をご覧ください。

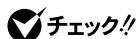
電源の自動操作

タイマやLAN(ローカルエリアネットワーク)回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマ

「電源の管理」の「システムスタンバイ」

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「システムスタンバイ」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。工場出荷時は約15分でディスプレイの電源を切るように設定されています。



チェック!

ACPIモードで使用時に、「スタート」ボタン「コントロールパネル」の「電源の管理」をダブルクリックし、「システムスタンバイ」の設定時間を、「モニタの電源を切る」の設定時間よりも長くした場合、「システムスタンバイ」は「モニタの電源を切る」が実行されてからの時間となります。よって、次のような設定がなされている場合、実際にシステムスタンバイが実行されるのは、「モニタの電源を切る」の20分後である35分後となります。

「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 15分後

「システムスタンバイ」を20分後に設定したい場合は、次のように設定してください。

例1:

「システムスタンバイ」 15分後

「モニタの電源を切る」 5分後

例2:

「システムスタンバイ」 20分後

「モニタの電源を切る」 なし

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を入れる/切る、またはスタンバイ状態にする/スタンバイ状態から復帰することができます。「Timer-NX」で指定した時刻に電源を入れることができるのは、APMモードで使用しているときだけです。ACPIモードでは使用できません。

参照 「電源の管理について(APMモード/ACPIモード)」(P.41)

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加「Timer-NX」

リモートパワーオン機能(LANボードによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるPCの電源を入れる機能です。

参照 「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」運用管理機能「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.95)

「電源」電源の管理について(APMモード/ACPIモード)「ACPIモード時の注意事項」(P.46)

リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。電源を入れることはできません。

参照 FAXモデムのマニュアル、『活用ガイド ソフトウェア編』PART1アプリケーションの概要と削除/追加「Timer-NX」

電源の管理について(APMモード/ACPIモード)

本機では、電力を節約する機能を使うための電源管理のモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードを使うことができます。本機は工場出荷時の状態では、APMモードに設定されています。

用語 APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは本体や周辺機器の電源の管理を、BIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

用語 ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、本体や周辺機器の電源の管理をOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみで、Windows 98で実現できるようになりました。

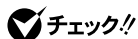
モードの確認

どちらのモードで動作しているかは「デバイスマネージャ」で確認できます。

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」が表示されたら「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 「システムデバイス」をクリック
以下の情報が表示されます。
 - ・ APMモードのとき : アドバンスド パワー マネージメント サポート
 - ・ ACPIモードのとき : ACPIXXXX

APMモードからACPIモードへの切り替え方法

APMモードからACPIモードへ切り替える際には、Windows 98に関して十分知識がある方が作業するようにしてください。



チェック!

- ・ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に割り込みを一つ使用します。ACPIモードへの切り替えは、使用していない割り込み (IRQ) を確認してから行ってください。
- ・モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップの直後に行ってください。
- ・APMモード (工場出荷時) からACPIモードに切り替えた後、ACPIモードからAPMモードに戻すには再セットアップが必要です。




参照▶ 再セットアップ 『活用ガイド 再セットアップ編』

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリック
- 2 エクスプローラから「C: ¥MODECHG¥ACPI_APM.VBS」をダブルクリック
- 3 「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい。」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 4 「ACPIを有効にする準備ができました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 5 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 6 「ハードウェアの追加」をダブルクリック
- 7 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面で「次へ」ボタンをクリック
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 9 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら「デバイス是一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

10 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検索されます。」というメッセージが表示されたら「はい(通常はこちらを選んでください)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

11 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ハードウェアの検出が始まります。

12 「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

-  **チェック!!**
- ・「次のプラグアンドプレイデバイスがインストールされました。」と表示された場合、「ほかのデバイスをインストールする」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。
 - ・Windows 98のCD-ROMをセットするように要求するメッセージが表示された場合は、本体ハードディスクにあるC:\WINDOWS\OPTIONS\CABSフォルダを指定して、ドライバの組み込みを行ってください。
 - ・APMモードからACPIモードへの切り替えを実行すると、ディスプレイの設定が640×480の16色モードになる場合があります。切り替え完了後、画面のプロパティで元の設定に再設定してください。

13 ハードウェアウィザード終了後、「コンピュータを再起動してください」というメッセージが表示されるので「はい」ボタンをクリック

14 「スタート」ボタン 「プログラム」 「エクスプローラ」をクリック

15 エクスプローラから「C:\MODECHG\APMOFF2.REG」をダブルクリック

16 「情報をレジストリに追加しますか？」というメッセージが表示されるので「はい」ボタンをクリック

17 「レジストリに正しく入力されました。」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリック

APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

3モードFDドライバの再セットアップ

APMモードからACPIモードへ切り替え後、1.2MBフロッピーディスクが使用できなくなった場合は、以下の手順で3モードFDドライバを組み込み直してください。


- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「システムのプロパティ」の画面が表示されたら、「デバイスマネージャ」タブをクリック
- 4 リストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリック
- 5 表示されたドライバ名の中に以下のドライバが存在するか確認する

MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、
MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Lの場合
「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」

MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA60J/M、MA50J/Mの場合
「NEC 3-mode Floppy(FDC37C675)」

MA46H/Sの場合

「Winbond 3-mode Floppy Controller」

 **チェック!** ここで「フロッピーディスクコントローラ」の下に「NEC 3-mode Floppy (LPC47B27x)」、「NEC 3-mode Floppy(FDC37C675)」または「Winbond 3-mode Floppy Controller」が存在しなかった場合には、6~9の手順は必要ありません。手順10へ進んでください。

- 6 「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」、「NEC 3-mode Floppy (FDC37C675)」または「Winbond 3-mode Floppy Controller」をクリックして反転表示させて「削除」ボタンをクリック

7 「デバイス削除の確認」が表示されますので、「OK」ボタンをクリック

8 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリック

9 Windows 98を再起動する

☑ **チェック!** 再起動後にディスプレイの解像度や色数が変更されることがあります。その場合は、手順19が終了した後に、ディスプレイの表示の設定を変更して元の解像度、色数に戻してください。

10 「スタート」ボタン 「設定」「コントロールパネル」をクリック

11 「ハードウェアの追加」をダブルクリック

☑ **チェック!** 新しいハードウェアデバイスをインストールする前に、実行中のアプリケーションがある場合にはすべて終了させてください。

12 「新しいハードウェアの追加ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

13 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
検索が開始されます。

14 「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

15 「プラグアンドプレイ以外の新しいハードウェアが自動的に検出されます。」というメッセージが表示されたら、「いいえ(一覧から選択する)」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

16 「ハードウェアの種類」のリストの中から「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック

- 17** 製造元とモデルを選択する画面が表示されますので、製造元からはNECをモデル一覧からは以下のドライバを選択し、「次へ」ボタンをクリック

MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Lの場合
「NEC 3-mode Floppy(LPC47B27x)」

MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA60J/M、MA50J/Mの場合
「NEC 3-mode Floppy(FDC37C675)」

MA46H/Sの場合
「Winbond 3-mode Floppy Controller」

- 18** 「完了」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。

- 19** 再起動を促すメッセージが表示されますので、「はい」ボタンをクリック

以上で3モードFDドライバの組み込みは完了です。

リモートパワーオン機能(ACPIモード時)を使用するための設定
ACPIモード時にスタンバイ状態からの復帰をリモートパワーオン機能で行う場合は、次の設定が必要となります。

MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA60J/M、MA50J/Mの場合

- 1** 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2** 「システム」をダブルクリック
- 3** 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 4** 「NEC 82559-based Fast Ethernet Adapter」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

- 5 「電源の管理」タブをクリック
- 6 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックボックスをオンにする
- 7 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
- 8 「OK」ボタンをクリック
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 11 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「NEC 82559-based Fast Ethernet Adapter」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 12 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「Enable PME」を選択し、「値」を「Hardware Default」に設定する
- 13 「OK」ボタンをクリック
- 14 「OK」ボタンをクリック
- 15 Windowsを再起動する

MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/Sの場合

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「デバイスマネージャ」タブの「ネットワークアダプタ」をダブルクリック
- 4 「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック

- 5 「電源の管理」タブをクリック
- 6 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」のチェックボックスをオンにする
- 7 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」のチェックボックスをオンにする
- 8 「OK」ボタンをクリック
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリック
- 11 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「Accton EN1207D Series PCI Fast Ethernet Adapter」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリック
- 12 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」の一覧から「PME Enable」を選択し、「値」を「Enable」に設定する
- 13 「OK」ボタンをクリック
- 14 「OK」ボタンをクリック
- 15 Windowsを再起動する

ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時にパワーマネジメント機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・ MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が正常に表示されない場合があります。その場合には、【Alt】+【Tab】を押してタスクを切り替えることにより正常に動作するようになります。

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。キーボードの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「キーボード」で行ってください。

参照 Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キーの配列などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列
	USB小型キーボード		109準拠
	USB98配列キーボード		98配列
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、本機のキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続キーボード(USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード)を抜き差しする場合、USB接続キーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続キーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windows 98を再起動してください。

APMモードからACPIモードへの切り替え後の注意

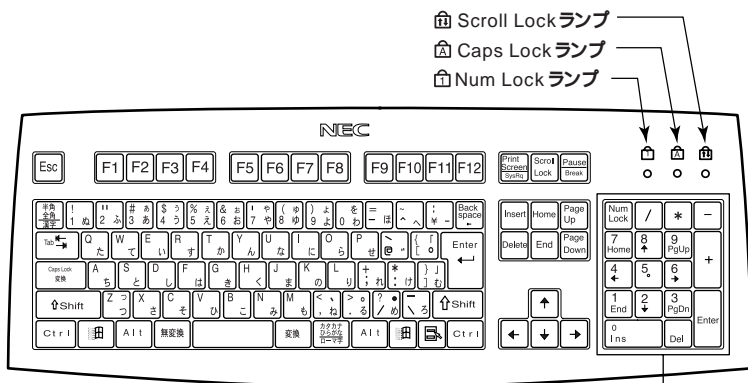
USB98配列キーボードの場合、APMモードからACPIモードへの切り替えを実行すると、キーボードの設定が「106日本語(A01)」に変わってしまいます。切り替え完了後、再設定してください。

設定方法は、「スタート」ボタン「プログラム」「補足説明」をご覧ください。

USB109キーボードとPS/2 109キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



テンキー

Esc : エスケープキー

F1 ~ **F12** : ファンクションキー

Print Screen : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー

一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.51)




















Pause Break : ポーズ/ブ레이크キー

半角/全角漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.51)

 : シフトキー	 : デリートキー
 : コントロールキー	 : ホームキー
 : Windowsキー	 : エンドキー
 : アプリケーション キー	 : ページアップキー
 : オルトキー	 : ページダウンキー
 : 無変換キー	 : カーソル移動キー
 : スペースキー	 : ニューメリックロックキー
 : 変換キー	一度押すとニューメリック
 : カタカナひらがな/ローマ字キー	ロックし、Num Lockランプ
 : エンターキー	が点灯します。「キーを
 : バックスペースキー	ロックする」
 : インサートキー	

参照 ▶ Windowsキーとアプリケーションキー Windows 98のヘルプ

キーをロックする

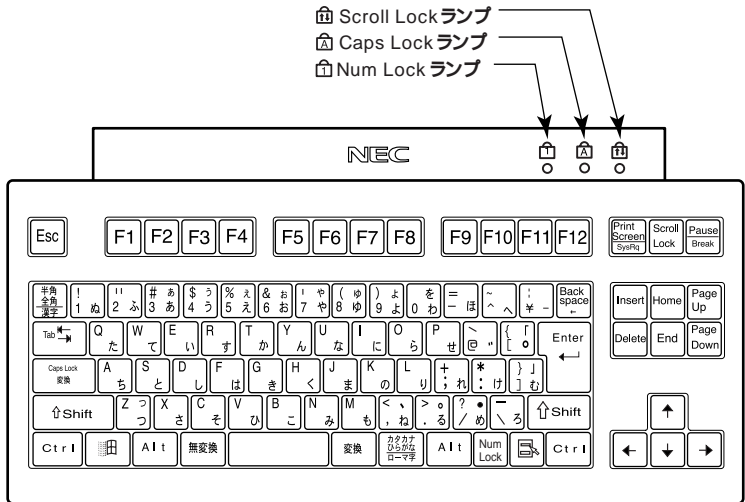
【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

USB小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen/SysRq : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.51)

Pause/Break : ポーズ/ブレイクキー

半角/全角/漢字 : 半角/全角/漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock/英数 : キャプスロック/英数キー

【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。「キーをロックする」(P.51)

↑Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

 : Windowsキー


 : アプリケーション キー

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー

 : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ニューメリックロックキー

一度押すとニューメリック
ロックし、Num Lockランプ
が点灯します。「キーを
ロックする」

参照 Windowsキーとアプリケーションキー Windows 98のヘルプ

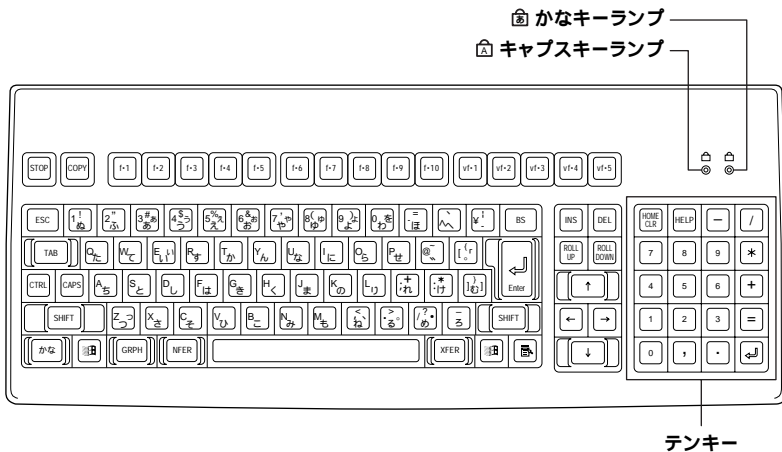
キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.51)をご覧ください。





















USB98配列キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



- Ⓐ** : キャプスキーランプ
【CAPS】を押すと点灯します。
- あ** : かなキーランプ
【かな】を押すと点灯します。
(Windows 98では、かなキーランプは点灯しません。)
- CAPS** : キャプスキー
- かな** : かなキー
- COPY** : コピーキー
- f·1 ~ f·10** **vf·1 ~ vf·2**
: ファンクションキー
- vf·3** (Num Lock-側面文字)
: WindowsではNum Lockは常にON状態になっています。
- vf·4** (Scroll Lock-側面文字)
: MS-DOSモード/MS-DOSプロンプト上またはWindows NT上では、Scroll Lockとして動作します。
- vf·5** (半角/全角-側面文字)
: MS-DOSモード/MS-DOSプロンプト上またはWindows NT上では、半角/全角として動作します。

 BS : バックスペースキー	 SHIFT : シフトキー
 INS : インサートキー	 : Windowsキー
 DEL : デリートキー	 : アプリケーションキー
 HOME CLR : ホームクリアキー	 XFER : エクスファーキー
 HELP : ヘルプキー (End:エンドキー)	 : スペースキー
 ROLL UP : ロールアップキー (PgDn:ページダウンキー)	 NFER : エヌファーキー
 ROLL DOWN : ロールダウンキー (PgUp:ページアップキー)	 GRPH : グラフキー (Alt:オルトキー)
 ↑ ↓ → ← : カーソルキー	 CTRL : コントロールキー
 ↵ : リターンキー (Enter:エンターキー)	 TAB : タブキー
	 ESC : エスケープキー
	 STOP : ストップキー

参照 ▶ Windowsキーとアプリケーションキー Windows 98のヘルプ

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。


日本語入力プログラム	アプリケーションなしモデル	Office 2000 Personalモデル および Office 2000 Professionalモデル	一太郎10・花子10 パック & 1-2-3 2000モデル
MS-IME98			
MS-IME2000			
ATOK13			

- ： インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム
- ： インストールされている日本語入力プログラム


日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード、USB小型キーボードの場合

- ・ キーボードの【Alt】を押しながら【半角/全角/漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する

USB98配列キーボードの場合

- ・ 【CTRL】を押しながら【XFER】を押す
- ・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する



チェック!!

NEC 98 Layout Keyboard(XFER)を設定した場合、MS-IME 98、MS-IME 2000で【XFER】で日本語入力をOFFにすることはできません。【XFER】で日本語入力をOFFにできるようにするには、「Microsoft IME 98詳細プロパティ」または「Microsoft IME 2000詳細プロパティ」の「キーの設定」で、【変換】の入力/変換済み文字なしの設定を「再変換」から「-」に変更してください。

日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。ここでは、MS-IMEとATOK13での最も簡単な手順を示します。詳しくは、MS-IMEまたはATOK13のヘルプをご覧ください。

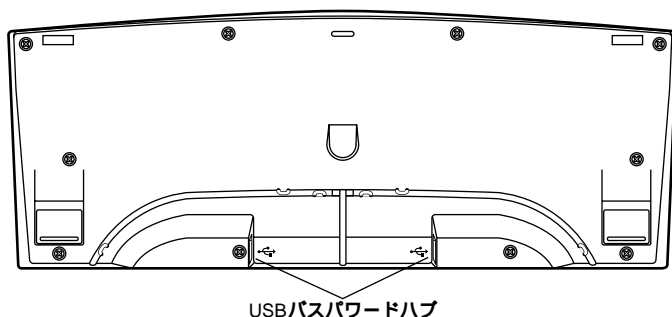
- 1 MS-IMEツールバー(ATOK13ツールバー)の一番左のアイコンをクリックして入力する文字の種類をクリック
- 2 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)
- 3 【スペース】を押す(変換の結果が正しくない場合は、正しく変換されるまで繰り返す)
- 4 【Enter】を押す(この段階で確定し、文字が入力される)

メモ

日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続キーボードの使用上の注意

USB接続キーボード(USB 109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが2つ装備されています。そのうち1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスが接続されます。残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



電源容量による接続の制限

USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続キーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られません。

メモ

ハイパワーデバイス：接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-UP001(フルカラーイメージスキャナ)

PK-MC201(デジタルビデオカメラ)

PK-MC202(デジタルビデオカメラ)

ローパワーデバイス：接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

例)PK-KB009(マウス)

PK-UP004(バーコードリーダ)

- USB接続キーボードのUSBハブは、バスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
- USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。

マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。マウスの設定については、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」の「マウス」で行ってください。

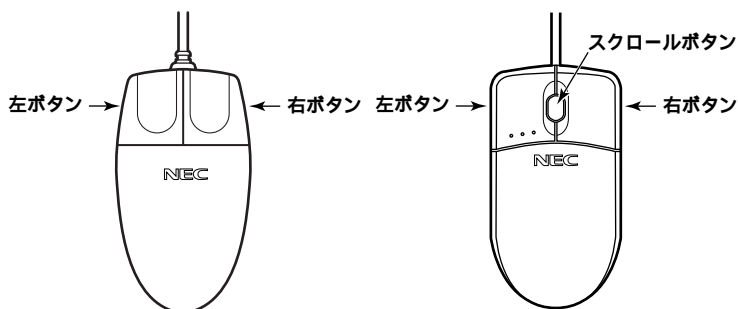
参照 Windows 98のヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、ご購入時に選択されたキーボードの種類により異なります。

PS/2接続のキーボードの場合

USB接続のキーボードの場合



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して放す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

USB接続のキーボードに添付されるスクロールボタン付きマウスには、スクロールボタンがあります。通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときに \updownarrow (スクロールアイコン)が表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

チェック!! スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。ディスプレイの設定については、「スタート ボタン」「設定」「コントロールパネル」の「画面」で行ってください。

参照 Windows 98のヘルプ

- チェック!!** リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定は機種によっては「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。なお、19インチCRTディスプレイ(FE90)をご利用の場合、工場出荷時はリフレッシュレートが最適に設定されています。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度、表示色、水平走査周波数、垂直走査周波数の関係は次の表の通りです。

- チェック!!** 使用するディスプレイによっては、画面の位置、サイズなどの調整が必要な場合があります。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。なお、液晶ディスプレイの場合は、「液晶ディスプレイ調整ツール」を利用すると簡単に画面の調整が行えます。デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)の場合は調整不要です。

参照 液晶ディスプレイ調整ツール 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「液晶ディスプレイ調整ツール」

MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA60J/M、MA50J/M

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるモニターとの対応						
解像度 [ドット]	表示色	水平走査	垂直走査	15型	17型	19型	14型	15型	15.4型	18型
		周波数 [KHz]	周波数 [Hz]	CRTディスプレイ (DV15A3)	CRTディスプレイ (DV17D2)	CRTディスプレイ (FE90)	デジタル液晶ディスプレイ (F14T52)	デジタル液晶ディスプレイ (F15T42) (F15S32)	液晶ディスプレイ (F15R42W)	液晶ディスプレイ (F18S1W)
640×480	256色	43.3	85				×	×	×	×
	65,536色	37.5	75				×	×		
	1,677万色	31.5	60				1	1		
800×600	256色	53.7	85				×	×	×	×
	65,536色	46.9	75				×	×		
	1,677万色	37.9	60				1	1		
1,024×768	256色	68.7	85				×	×	×	×
	65,536色	60.0	75				×	×		
	1,677万色	48.4	60				1	1		
1,280×1,024	256色	91.1	85	×	×		×	×	×	×
	65,536色	80.0	75	×	×		×	×		
	1,677万色 ²	64.0	60	×			×	×		
1,600×1,200	256色	106.3	85	×	×	×	×	×	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×		×	×	×	×
	1,677万色 ³	75.0	60	×	×		×	×	×	×

- 1 デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。
- 2 垂直走査周波数は60Hz、75Hzのみです。
- 3 垂直走査周波数は60Hzのみです。

MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、
MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/S

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるモニターとの対応						
解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	15型 CRTディ スプレイ (DV15A3)	17型 CRTディ スプレイ (DV17D2)	19型 CRTディ スプレイ (FE90)	14型 デジタル 液晶ディ スプレイ (F14T52)	15型 デジタル 液晶ディ スプレイ (F15T42) (F15S32)	15.4型 液晶ディ スプレイ (F15R42W)	18型 液晶ディ スプレイ (F18S1W)
640×480	256色	43.3	85				×	×	×	×
	65,536色	37.5	75				×	×		
	1,677万色	31.5	60							
800×600	256色	53.7	85				×	×	×	×
	65,536色	46.9	75				×	×		
	1,677万色	37.9	60							
1,024×768	256色	68.7	85				×	×	×	×
	65,536色	60.0	75				×	×		
	1,677万色	48.4	60							
1,280×1,024	256色	91.1	85	×	×		×	×	×	×
	65,536色	80.0	75	×	×		×	×		
	1,677万色	64.0	60	×			×	×		
1,600×1,200	256色	106.3	85	×	×	×	×	×	×	×
		93.8	75	×	×		×	×	×	×
		75.0	60	×	×		×	×	×	×

デジタル液晶ディスプレイ(F14T52、F15S32、F15T42)は、垂直走査周波数の設定は60Hzに固定です。

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Power Management System)に対応しています。ディスプレイセットモデルをご購入のお客様は、ディスプレイの省電力機能が使用できます。



チェック!

省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

メモ

VESAでは、ディスプレイの電源の状態をオン(電源が入っており、画面表示している状態)、省電力モード(スタンバイ、サスペンド、オフ)、コンプリートオフ(電源が切れた状態)と定義しています。

適合するディスプレイを使う

本機に接続するディスプレイは「表示できる解像度と表示色」(P.59)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。

別売のディスプレイについて

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、以下のことに注意してください。

- ・ 別売のデジタル液晶ディスプレイを使用する場合は、VESAのDFP (Digital Flat Panel)に準拠したデジタルインタフェースを持つデジタル液晶ディスプレイをご利用ください。

メモ

- ・ デジタルインタフェースを持つディスプレイとアナログインタフェースを持つディスプレイを同時に利用することはできません。
- ・ Windows 98を使用する場合は、640×480ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。
別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイにあわせて本体の設定を変更する必要があります。
- ・ 本体が、ディスプレイにあわせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。
- ・ 別売のディスプレイを使用する場合は、解像度、走査周波数の条件を満たしていることを確認してください。
- ・ ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。
- ・ 次の別売のディスプレイは使用できません。

PC-KM212

PC-KM174

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればスキャンディスクを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

⚠ 注意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

温度、湿度条件を守ってください。

温度10 ~ 35、湿度20% ~ 80%(ただし結露しないこと)

ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。

電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。

電源を切るときは、Windows 98のシャットダウンを行ってから電源を切ってください。

正常な終了手順に従わずに電源を切ると、データがこわれてしまうことがあります。

電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまう、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。なお、MA46H/Lには添付していません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」, Windows 98のヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows 98の「スキャンディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。

また、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
6.4Gバイト	6,400,000,000バイト以上
8.4Gバイト	8,400,000,000バイト以上
13.0Gバイト	13,000,000,000バイト以上
20.0Gバイト	20,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

メモ

本機で使用できる内蔵ハードディスクのセクタ長は、512バイトです。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクドライブは、工場出荷時には第1パーティション（ドライブ番号:Cドライブ）として2GBの領域が確保されています。残りの領域は、第2パーティションとして確保されています。また、追加ハードディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、工場出荷時には、第1パーティション（ドライブ番号:Dドライブ）としてすべての領域が確保されています。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ	Dドライブ	追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、FAT32)
Eドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ		CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

5インチベイにスーパーディスクドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブ
Bドライブ		スーパーディスクドライブ(5インチベイ用)
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、FAT32)
Eドライブ	Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Qドライブ		CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

Zipドライブが搭載されているモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Aドライブ		フロッピーディスクドライブ
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ		追加ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、FAT32)
Eドライブ	Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)
Fドライブ	Eドライブ	Zipドライブ
Qドライブ		CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ

追加ハードディスクドライブを搭載したモデルのドライブに割り当てられたドライブ番号です。

NetPCモデルの場合

ドライブ番号		ドライブの種類
Cドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、2GB、FAT16)
Dドライブ		ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、FAT32)

メモ

領域を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドについては『活用ガイド 再セットアップ編』の「PART1 再セットアップする」の「ハードディスクの領域を自由に設定して再セットアップする(カスタム再セットアップ)」をご覧ください。

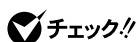
スキャンディスクの操作手順

スキャンディスクを使用すると、ハードディスクのファイルやフォルダにデータエラーがないかチェックできます。

Windows 98が起動している場合(通常の場合)

- 1 「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「システムツール」「スキャンディスク」をクリック
- 2 エラーをチェックするドライブを選択する
- 3 「チェック方法」で「標準」を選択する
- 4 「エラーを自動的に修復」をクリックしてチェックを付ける
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「結果レポート」が表示されたらレポートを読み、エラーが発見されなかった場合は、「閉じる」ボタンをクリック
エラーが発見された場合は、画面の指示に従ってください。
- 7 もう一度「閉じる」ボタンをクリック

- 1 本体の電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴ表示画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot.」または「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します。F12 :ネットワークブートします。」と表示されたら、すぐに【Ctrl】を「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されるまで押す
- 3 「5.Command prompt only」を選択し、【Enter】を押す
- 4 コマンドプロンプトから scandisk と入力し、【Enter】を押す
- 5 エラーが発生した場合は「ファイルに変換する」等を選択して修復する
- 6 「クラスタスキャンを実行しますか?」のメッセージが表示されたら、矢印キーで「いいえ」を選択し、【Enter】を押す
- 7 【X】を押してスキャンディスクを終了する



チェック!

定期的にはスキャンディスクを起動して、ハードディスク上にエラーが無いことを確認してください。

メンテナンスウィザードを利用すると、定期的にはスキャンディスクを起動することができます。メンテナンスウィザードの起動方法は次の通りです。

「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「システムツール」「メンテナンスウィザード」をクリック

スキャンディスクの結果、システムに重大な問題が発見された場合は再セットアップが必要になります。その場合は『活用ガイド 再セットアップ編』をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

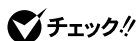
コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。なお、フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×
	720KB		
2HD	1.2MB		×
	1.44MB		

MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使用できます。



チェック!

- ・1.2MBのフロッピーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です。)
- ・未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットする場合、ディスクのチェックに時間がかかる場合があります。フォーマット開始後にフロッピーディスクドライブのアクセスランプがつきっぱなしになった場合は、しばらくするとフォーマット処理が開始されます。
- ・マイコンピュータまたはエクスプローラで2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、フロッピーディスクをドライブから一度取り出し、再度入れてからご使用ください。フォーマット後、フロッピーディスクを取り出さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していてもエラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクにはこの手順は必要ありません。



参照 フロッピーディスクのフォーマット Windows 98のヘルプ

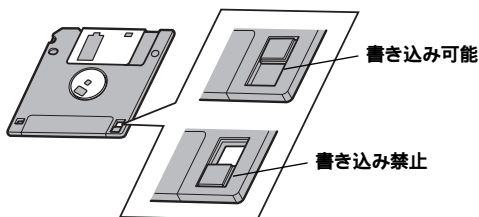
メモ

1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



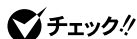
スーパーディスクドライブ

スーパーディスクドライブが標準で搭載されているモデルでは、従来のフロッピーディスクに加えて、120MBの記憶容量を持つスーパーディスクが使用できます。なお、フロッピーディスクまたはスーパーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。

使用できるディスク

本機では、2DD、2HDの2種類のフロッピーディスクと、スーパーディスクが使用できます。本機で読み書きおよびフォーマットできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
フロッピーディスク 2DD	640KB	×	×
	720KB		
フロッピーディスク 2HD	1.2MB		×
	1.44MB		
スーパーディスク	120MB		



チェック!

・スーパーディスクドライブに1.2Mバイトでフォーマットされたフロッピーディスクをセットして、1.44Mバイトでフォーマットする場合、エラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、「スタート」ボタン「プログラム」の「MS-DOSプロンプト」をクリックし、MS-DOSプロンプトを起動させ、次のように入力してください。

FORMAT A: /F:1.44【ENTER】

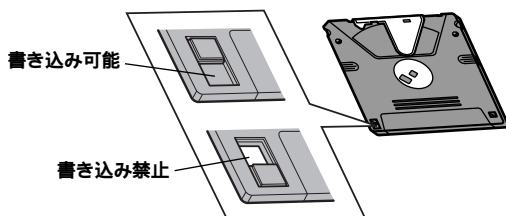
・1.2Mバイトのフロッピーディスクおよびスーパーディスクは、Windows 98の「ディスクのコピー」でバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)



1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



ディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスク、スーパーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理(初期化)を行う必要があります。

- ✓ **チェック!** スーパーディスクをMS-DOSプロンプトからフォーマットする場合は、FORMATコマンドにはオプションを付けしないでください。

メモ

容量、フォーマットの種類は必要に応じて設定してください。詳しくは、MS-DOSプロンプトから「FORMAT /?」と入力して表示されるヘルプをご覧ください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

チェック!! 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

- 1 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



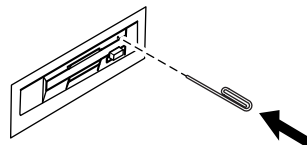
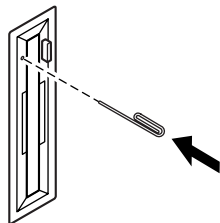
- 2 スーパーディスクドライブの非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクが少し飛び出します。



省スペース型の場合



デスクトップ型またはミニタワー型の場合



- 3 ディスクを取り出す



Zipドライブ

5インチベイにZipドライブが標準で搭載されているモデルでは、大量のデータを扱うことができます。Zipディスクは1枚で100MBの記憶容量を持っているので、ハードディスクのデータのバックアップをとるのに便利です。

- ✓チェック!!** Zipディスクの挿入は、本機に電源が入っている状態で行ってください。電源が入っていない状態でZipディスクを挿入するとZipドライブがこわれるおそれがあります。

使用できるディスクについて

本機では、100MBのZipディスクのみが使用できます。本機で読み書きできるディスクは次の通りです。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット
Zipディスク(100MB)	100MB		
Zipディスク(250MB)	250MB	×	×

Windows NTでZipディスクをフォーマットするには、専用のフォーマット可能なユーティリティソフトウェアが必要です。

- ✓チェック!!**
- ・本機では、FAT16フォーマットのZipディスクを利用できます。FAT32やNTFSには対応していません。
 - ・Zipドライブには、他の種類のディスクを絶対に挿入しないでください。Zipドライブがこわれるおそれがあります。

ディスク内容の保護

ディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするため、また重要なデータを保護するために、専用のユーティリティソフトウェアによってリード/ライトプロテクト(読み込み/書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトのみされているディスクは、データの読み出しはできますが、データの書き込みにはパスワードを入力する必要があります。リード/ライトプロテクトされているディスクは読み出し/書き込みのどちらにもパスワードが必要になります。

- ✔ **チェック!!** リード/ライトプロテクトされたZipディスクを利用するには、専用のリード/ライトプロテクト可能なユーティリティソフトウェアが必要になります。本機では、Zipディスクのリード/ライトプロテクト可能なユーティリティソフトウェアは添付されていませんので、リード/ライトプロテクトされたZipディスクはご利用になれません。

ディスクのフォーマット

市販のZipディスクは、フォーマット済みになっています。不要なデータをすべて消去するために、フォーマット処理(初期化)を行うことができます。なお、フォーマットを行うと、書き込まれたデータはすべて消えてしまい、復元できませんのでご注意ください。

- ✔ **チェック!!** Zipディスクをフォーマットするには、専用のフォーマット可能なユーティリティソフトウェアが必要です。本機では、Zipディスクのフォーマット可能なユーティリティソフトウェアは添付されていませんので、Zipディスクはフォーマットできません。FAT16でフォーマットされたZipディスクをご利用ください。

非常時のディスクの取り出し

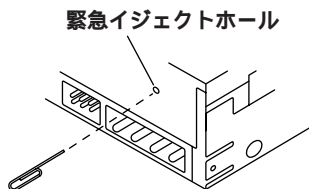
停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもZipディスクが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

- ✔ **チェック!**
- ・本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
 - ・Zipドライブを取り外した後で作業を行ってください。Zipドライブの取り外しについては『ハードウェア拡張ガイド』のPART3またはPART4の「ファイルベイ用内蔵機器の取り外し/取り付け」をご覧ください。

- 1** 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



- 2** 緊急イジェクトホール(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
Zipディスクが少し飛び出します。



- 3** Zipディスクを取り出す

CD-ROMドライブ

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音楽用のCDを再生することもできます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-ROM対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量により耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠した下記のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。



省スペース型の場合、8センチCDはご利用になれません。

規格	概要
Photo CD マルチセッション	写真を100枚まで記録できる追記型のCD
CD-DA(CD-Digital Audio)	一般の音楽CD プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された、動画用のCD-ROM
CD-I(CD-Interactive media)	マルチメディアシステムを実現するために提案された規格 再生用のソフトウェアやハードウェアまでを含めて規格されている
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
CD-G(CD-Graphic)	カラオケ用CDなどに使用される音楽CDの規格。歌詞や簡単な絵などの表示もできる
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD-ROM マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-Rewritable)	書き込み/書き換えができるCD-ROM 1000回もの書き換え/消去が可能

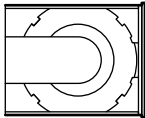


『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「プレーヤー-NX」

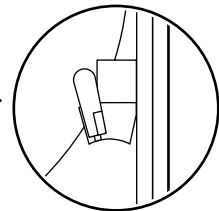
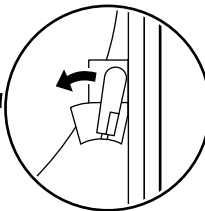
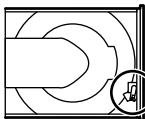
CD-ROMのセット(省スペース型の場合)

- 1 ディスクトレイジェクトボタンを押す
トレイが出てきます。
- 2 CD-ROMをトレイに置く
文字が書かれている面が見えるように置いてください。
- 3 ディスクトレイのツメを出す
ツメには下記のようなタイプがあります。

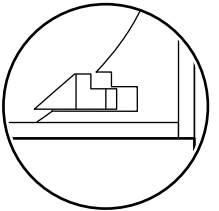
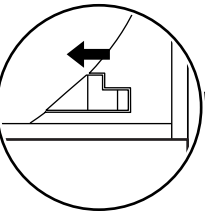
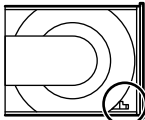
固定タイプ



一ツタイプA



一ツタイプB



- 4 ディスクトレイジェクトボタンを押す
ディスクトレイジェクトボタンは、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

非常時のディスクの取り出し

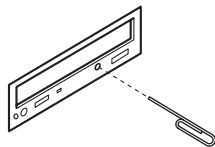
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

- ✔ **チェック!**
- ・本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
 - ・省スペース型をご利用の場合、筐体カバーを取り外した後で作業を行ってください。筐体カバーの取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

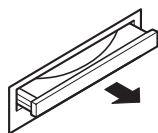
- 1** 細くて丈夫な針金を用意する
大きめのペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



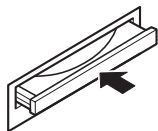
- 2** 非常時ディスク取り出し穴(直径約2mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3** ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4** ディスクトレイをドライブの中に押し込む





CD-RWドライブ

CD-RW(Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。

⚠ 警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、CD-RW対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-RWドライブでは、ISO9660に準拠したCDを再生・表示することができます。CD TEXTのTEXTデータ部は、読み出せません。再生できるCDについては、「CD-ROMドライブ」再生できるCDの種類(P.77)の表をご覧ください。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加え、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。


使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book PartⅡ(CD-R)およびPartⅢ(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、使用するソフトウェアのヘルプをご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、Easy CD Creator LiteまたはDirectCDが必要です。

使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「Easy CD Creator Lite」または「DirectCD」をご覧ください。

-  **チェック!!**
- ・書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
 - ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
 - ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピーの作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からのコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。

非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」非常時のディスクの取り出し(P.79)をご覧ください。



サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器などから再生することができます。音量の設定については、「スタートボタン」「プログラム」「アクセサリ」「マルチメディア」「ボリュームコントロール」で行ってください。

 参照 ▶ ボリュームコントロールのヘルプ

 **チェック!!** MA46H/Sをご利用の場合、再生には外付けスピーカが必要です。

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリューム(省スペース型の場合)または「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。



MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S

本体に内蔵している100BASE-TX/10BASE-Tコネクタを使用しない場合は、BIOSセットアップメニューの「詳細」の「内蔵LAN」の設定を「使用しない」にしてください。また、「使用しない」に設定した場合はリンクケーブルを接続しないでください。



「PART2 システム設定」詳細の設定(P.106)

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードまたは100BASE-TX/10BASE-Tコネクタが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。



「PART4 付録」機能一覧(P.150)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。



チェック!! 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

LANの設定

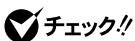
ここではLANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については『Microsoft Windows[®] 98 ファーストステップガイド』またはWindows 98のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows[®] 98 ファーストステップガイド』の「第5章 高度な機能」の「ネットワークを使う」をご覧ください。

ネットワークのセットアップ

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 必要な機能を追加

ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワーク設定」タブの「追加」ボタンをクリック
- 4 共有サービスを追加
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力
- 7 「OK」ボタンをクリック



チェック!

設定方法がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

ネットワークパスワードの変更について

ここではLAN(ローカルエリアネットワーク)に接続するためのパスワードの変更方法について説明します。ご利用になっているネットワークの設定によって、操作方法が異なりますのでネットワークの設定にあった説明を参照してください。

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと同一のパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「Windowsパスワードの変更」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインにログオンする」を設定している場合で、Windowsパスワードと異なるパスワードを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「ほかのパスワード」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの選択」の画面で「Microsoftネットワーク」を選択し、「変更」ボタンをクリック
- 5 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 6 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

「Microsoftネットワーククライアント」で Windows NTのドメインにログオンする」を設定していない場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「パスワード」をダブルクリック
- 3 「パスワードの変更」タブをクリックし、「Windowsパスワードの変更」ボタンをクリック
- 4 「パスワードの変更」の画面で「古いパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワードの確認入力」を正しく入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Windowsパスワードが変更されました」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック



FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、FAX通信機能、データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。ATコマンドについては、『ATコマンド（電子化マニュアル）』をご覧ください。

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

- ・ Microsoft Windows 98のハイパーターミナル
- その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しない可能性があります。

FAX通信機能

本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。
また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

最高56000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。

電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。

FAXモデムボードを使用するときの注意

適用電話回線について

回線は、電話回線（以降、加入電話回線と呼びます）、総合デジタル通信網（ISDN）、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

「技術基準等適合認定について（P.7）」

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

送信レベルについての注意

加入電話回線を使用する場合、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『メンテナンス&サポートのご案内』NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- ・ 電話機用モジュラーコネクタには、他のモデムを接続しないでください。他の外付けモデムなどが、電話機用モジュラーコネクタに接続されている場合は取り外してください。
- ・ 通信中は、電話機用モジュラーコネクタに接続した電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信が中断されることがあります。
- ・ コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- ・ FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号にあわせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカーや保守業者、第1種通信事業者（NTTなど）に確認してください。
- ・ 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- ・ FAXモデムボードに接続できる電話機などは2線式の回線用のみです。電話機などの種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、接続する電話機などによっては、FAXモデムボードが正常に通信できない場合があります。正常に通信できない場合は、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。
 - ・ 接続する電話機などのアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ。

- ・ 電話機などに別の電話を接続するためのコネクタがある場合は、接続の順番を変える(加入電話回線 = 電話機 = 本機のようにする)。接続については、電話機などのマニュアルをご確認ください。
- ・ モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。

FAXモデムボードの電話機用モジュラーコネクタに電話機などを接続している場合や、市販の分岐コネクタを使用して電話機などと本機とを加入電話回線に接続している場合は、モデムによる通信の際に電話機などを使用していないことを確認してください。また、モデムで通信中は電話機などを操作しないようにしてください。電話機などを操作すると、通信が妨害され、切断されることがあります。

- ・ 電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信/受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)〔工場出荷時の設定〕に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- ・ FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXの場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9600bps以下にしてください。
- ・ 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ・ K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

COMポートの設定について

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのポート番号は、工場出荷時の状態ではCOM2が割り当てられています。通常はこのままご使用ください。

ポート番号を変更するときは次の手順で変更してください。

- 1 起動している通信アプリケーションをすべて終了する
- 2 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 3 「システム」をダブルクリック
「システムプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリック
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。
- 5 「モデム」をダブルクリックし、表示された「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)」をクリック(反転表示)
- 6 「プロパティ」をクリック
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 7 「リソース」タブをクリック
- 8 「自動設定を使う」のチェックボックスを外す
- 9 「基にする設定」の値を変更し、「リソースの種類」にある「I/Oの範囲」を設定する
COM1の場合 : 03F8-03FF
COM2の場合 : 02F8-02FF
COM3の場合 : 03E8-03EF
COM4の場合 : 02E8-02EF
リソースが競合していないことを確認してください。
競合している場合、そのポートへの変更はできません。
- 10 「OK」ボタンをクリック
「NEC Fax Modem 56K Data+Fax(DJP)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 11 「OK」ボタンをクリック
「変更不可の環境設定の作成」ウィンドウが表示されます。
- 12 「はい」をクリック
しばらくすると、「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 13 「閉じる」ボタンをクリック
- 14 Windowsを再起動する
以上で、ポート番号の変更は終了です。

Mate NXセキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、障害管理、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブやCD-ROMドライブを使用できないようにする(ロックする)(I/Oロック)
- ・ メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させないようにする。(筐体ロック)
- ・ 一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。(CyberAccess)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)
- ・ ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions))
- ・ ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions))

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

BIOS LOCK

BIOSレベルで本機の使用者を限定し、本機の起動を制限します。これにより、コンピュータウイルスやデータ改ざんなどからパソコンを守ります。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」の「セキュリティの設定 (P.111) MA46H/Sの場合は『本機をお使いの方へ』の「Security Setupの設定」

BIOS LOCKには、次の方法があります。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「起動時のパスワード」を「使用する」に設定してください。

指紋認証を利用する

本体の起動時やパスワードの入力を要求される場合、別売の指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002〕を利用して指紋を照合することで、ユーザーの不正使用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。Securityモデルの場合も、同等の機能を利用できます。MA46H/L、MA46H/Sではご利用になれません。

スマートカードを利用する

別売のスマートカードリーダー/ライター(PK-SM001)とスマートカード発行ツール(PK-SM002V2)スマートカード(PK-SM003)を利用することで、本体起動時にスマートカードを差し込むだけで個人認証をすることができます。MA46H/L、MA46H/Sではご利用になれません。

参照 ▶ スマートカード発行ツール(PK-SM002V2)に添付のマニュアル

- チェック!!** 下記の状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「ネットワーク起動時の設定」の「BIOS LOCK」を「使用しない」にしなければなりません。
- ・スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合
 - ・本機に指紋認証ユニットが接続され、指紋認証ユニットのBIOS LOCKが設定されている場合
 - ・本機にスマートカードリーダーが接続され、スマートカードのBIOS LOCKが設定されている場合

ハードディスクパスワード

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することで、本機以外のパーソナルコンピュータでのハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/Cの場合に利用できます。

参照 ▶ ハードディスクパスワードの設定 「PART2 システム設定」セキュリティの設定 (P.111)

RSA SecurPC

RSA SecurPCとは、ファイルやフォルダをパスワード付きで暗号化し、データの漏洩防止やプライバシーを保護します。また、Windowsのログオン/ログオフ時にファイルやフォルダを暗号化/復号化したり、暗号化したファイルを電子メールなどで相手に送信したときもパスワードを入力するだけで復号化できます。

参照 ▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「RSA SecurPC」

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O(フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、シリアルポート、パラレルポートなど)を利用できないようにする機能です。

この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションソフトをインストールすることを防止することができます。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」I/Oロック (P.113)、MA46H/Sの場合は『本機をお使いの方へ』の「Peripheral Setupの設定」

筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体のハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止に役立てることができます。また、市販のロック付き盗難防止ケーブルを使用することで、本体の開閉や盗難防止にも役立てることができます。



MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、
MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA60J/M、MA50J/M

省スペース型およびミニタワー型をご利用の場合、筐体ロックはKensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しており、別途購入していただく必要があります。入手方法については、次の国内総販売代理店にお問い合わせください。

日本ポラロイド株式会社 電子映像事業部

〒105-8456 東京都港区虎ノ門3丁目2番地2号第30森ビル

TEL: 03-3438-8879 FAX: 03-5473-1630 (1999年12月現在)



MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S、MA46H/S

デスクトップモデルをご利用の場合、セキュリティプレートを取り付けることで本体カバーをロックすることができます。セキュリティプレートの取り付けについては『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。

ルーフカバーオープン検知

カバーセンサにより、ルーフカバーの開閉を検知します。開閉が検知された場合は、Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions) により通知されます。メモリ、ハードディスクドライブが盗難されていないか、スーパーバイザーパスワード・ユーザーパスワードが解除されていないか、データの改ざん、コンピュータウイルスの侵入がないか調査してください。MA46H/Lではご利用になれません。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions)」

運用管理機能

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売のCyberAccess Ver2.0により、管理者PCから一括して設定、変更することができます。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「CyberAccess」

ネットワークブート

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上により、以下の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。MA46H/Lではご利用になれません。また、MA46H/SではBIOSフラッシュはご利用になれません。

- ・ OSのセットアップ
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

一括ファイル配信

管理者PCからリモート操作で、複数のクライアントPCに対して一括でファイルやアプリケーションの配信が行えます。別売のESMPRO/DeliveryManagerが必要です。

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

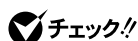
LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはIntel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)からのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。

リモートパワーオン機能を利用するためには、パワーオンメッセージを発信するパソコンには別売のDMITool Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)が、パワーオンメッセージを受信するパソコンにはBIOSの設定が必要です。



参照 ▶ BIOSの設定 「PART2 システム設定」起動の設定 (P.120)、MA46H/Sの場合は『本機をお使いの方へ』の「Power Management Setupの設定」
「電源」電源の管理について(APMモード/ACPIモード)「ACPIモード時の注意事項」(P.48)



チェック!!

- ・ACPIモードではリモートパワーオン機能で電源を入れることができません。APMモードでのみ可能です。ただし、スタンバイ状態からの復帰についてはACPIモードでも可能です。
- ・前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、Windows 98を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

リモートコントロール



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加』の「pcAnywhere 9.0 EX」

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作（ ）を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、本機を操作することができます。その際にはシステム管理者のマシンに別売のDMITool Ver 8.1(pcAnywhere™ 9.0 EXコンプリート版付)またはpcAnywhere (Symantec社製)が必要です。MA46H/Lではご利用になれません。

なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

アプリケーションによっては、できないものがあります。

プリブートマネジメント(Preboot Management)

別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上および別売のESMPRO/PrebootManager Ver1.0により、電源を入れてからWindowsが起動するまでの間の障害を監視します。また、管理者PCからリモートでクライアントPCのBIOS設定値を変更できるので、Windows起動前のクライアントPCに対するリモートメンテナンスが可能です。

MA46H/L、MA46H/Sではご利用になれません。

障害管理機能

本機には、次のような障害管理機能があり、異常を検出すると、Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)の状態監視機能へ異常を通知します。(機種により機能は異なります)

OFF state Alert II機能

本機の電源が切れている状態での筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜け等の異常を検出し、LANで接続された管理者側パソコンに通知します。また、オペレーティングシステムがハングアップした場合、LANで接続された管理者側パソコンに通知し、管理者側パソコンからリモートで電源を切ったり、再起動させることができます。なお、この機能を使用する場合、管理者側パソコンに別売のESMPRO/Client Manager Ver3.1以上(Windows 98/Windows NT版)をインストールする必要があります。MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/Sではご利用になれません。なお、商品の最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

SMART機能

ハードディスクドライブの異常を監視します。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T.(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup」との連携によってバックアップをとることができます。

MA46H/Lではご利用になれません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

クライアントモニタリング

Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGER Ver2.0を利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

MA46H/Lではご利用になれません。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加」の「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」

資源管理

本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

状態監視

筐体内温度、電圧、CPUファン監視機能から障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

ECC(Error Correcting Code)機能

メモリエラーを自動的に検出/訂正を行います。

MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/Sではご利用になれません。

ソフトウェアパワーOFF機能

Windows動作中に誤って電源ボタンに触れるなど、不用意に電源を切ってしまうことにより生じるファイルの破壊を防止します。

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「VirusScan」を使用します。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1 アプリケーションの概要と削除/追加の「VirusScan」

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

MA46H/Sをご利用の場合は、『本機をお使いの方へ』をご覧ください。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	100
メインの設定	103
詳細の設定	106
セキュリティの設定	111
省電力の設定	116
起動の設定	120

BIOS セットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。なお、初期起動時は、BIOSセットアップメニューは英語で表示されます。以降の説明は日本語で表示されたメニューを説明しています。日本語のメニューを表示する場合は、「日本語のメニューを表示する」をご覧ください。

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press F2 to Enter BIOS Setup, F12 to Network Boot. ()」と表示されたら、【F2】を押す
以下の画面が表示されます。

「日本語のメニューを表示する」でメニューを日本語に設定した場合は、「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します、F12 :ネットワークブートします。」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
メイン	詳細	セキュリティ 省電力管理 起動 終了
システム時刻:	[hh:mm:ss]	項目ヘルプ
システム日付:	[yyyy/mm/dd]	<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
言語:	[日本語(JP)]	
フロッピーディスクA:	[1.44/1.25Mb 3.5"]	
フロッピーディスクB:	[使用しない]	
▶プライマリマスタ	[x x x x MB]	
▶プライマリスレーブ	[なし]	
▶セカンダリマスタ	[CD-ROM]	
▶セカンダリスレーブ	[なし]	
▶キーボード機能		
起動時の自己診断画面	[使用しない]	
システムメモリ	640KB	
拡張メモリ	x x KB	
BIOSリビジョン	x x x x x x x x	
F1 ヘルプ	項目の選択	- / + 値の変更 F9 デフォルトの設定
Esc 終了	メニューの選択	Enter ▶サブメニューの選択 F10 保存して終了

メニューバー

パラメータ

キーステータスバー

日本語のメニューを表示する

英語のメニューを日本語で表示する方法について説明します。

- 1 メニューバーの「Main」の「English(US)」を選択し、【Enter】を押す

- 2 「日本語(JP)」を選択し、【Enter】を押す
 - 3 【F10】を押す
 - 4 「はい」を選択する
BIOSセットアップメニューが日本語で表示されます。
- 以上で作業は終了です。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「終了」の選択項目

選択項目	説明
変更を保存して終了する	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
変更を保存せずに終了する	変更した設定を保存せずに終了します。
デフォルト値をロードする	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。
変更を取り消す	変更前の値に戻します。
変更を保存する	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」ロゴの画面で、「F2 :BIOSセットアップメニューを起動します、F12 :ネットワークブートします。」と表示されたら、【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 3 【F9】を押す
「セットアップ確認」のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」を選択する
デフォルト値(工場出荷時の設定値)を読み込みます。

5 【F10】を押す

6 「はい」を選択する

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

メインの設定

メインの設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

システム時刻()

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

システム日付()

日付を「年/月/日」で入力します。

言語()

BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」に設定されています。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選択します。

省スペース型でスーパーディスクドライブが搭載されているモデルは「使用しない」に設定されています。フロッピーディスクドライブが搭載されているモデルおよびNetPCモデルは「1.44/1.25MB 3.5"」に設定されています。「使用しない」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容
フロッピーディスクA	使用しない
	360Kb 5.25"
	1.2Mb 5.25"
	720Kb 3.5"
	1.44/1.25Mb 3.5"
	2.88Mb 3.5"

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

フロッピーディスクB

フロッピーディスクAの設定と同じです。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。本項目が表示されない機種もあります。

プライマリマスタ()

現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面となります。

✔ **チェック!** 本項目の設定は変更しないでください。

プライマリスレーブ()

プライマリマスタの設定と同様です。

3.5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。

追加ハードディスクドライブが搭載されたモデルでは、追加ハードディスクドライブの設定画面になります。

✔ **チェック!** 本項目の設定は変更しないでください。

セカンダリマスタ()

プライマリマスタの設定と同様です。

工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブの設定画面となります。

✔ **チェック!** 本項目の設定は変更しないでください。

セカンダリスレーブ()

プライマリマスタの設定と同様です。

5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。スーパーディスクドライブが搭載されたモデルでは、スーパーディスクドライブの設定画面となります。Zipドライブが搭載されたモデルでは、Zipドライブの設定画面になります。

✔ **チェック!** 本項目の設定は変更しないでください。

キーボード機能

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
Num lock	自動 / オン / オフ	起動時にNum lockをオンにするかを設定します。
キークリック	使用しない / 使用する	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
キーボード自動リPEAT間隔	30 / 秒、26.7 / 秒、21.8 / 秒 18.5 / 秒、13.3 / 秒、10 / 秒 6 / 秒、2 / 秒	キーリピート間隔を設定します。

設定項目	設定内容	説明
キーボード自動リピー特待ち時間	1/4秒、1/2秒、3/4秒 1秒	キーリピー特が開始されるまでの待ち時間を設定します。
USBレガシー機能	使用する / 使用しない	USBレガシー機能を設定します。工場出荷時は、「使用する」です。Windows NTでPS/2 109キーボードの場合は「使用しない」に、USBキーボード(注)の場合は「使用する」に設定してください。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

注 USB109キーボード、USB小型キーボード、USB98配列キーボードです。

起動時の自己診断画面

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「使用しない」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「使用しない」です。

システムメモリ

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

拡張メモリ

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

BIOSリビジョン

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

Processor Serial Number

Pentium®IIIプロセッサの「Processor Serial Number」機能を設定します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。MA46H/C、MA46H/Z、MA46H/L、MA46H/Sをご利用の場合は、本項目は表示されません。

詳細の設定

詳細の設定

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

プラグ&プレイO/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「はい」を選択します。工場出荷時は「はい」に設定されています。Windows NTをご利用の場合は「いいえ」に設定してください。

設定値の初期化

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「する」を選択します。工場出荷時は「しない」に設定されています。ただし、「する」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「しない」に戻ります。

PCI設定

各PCIデバイスの割り込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
PCI IRQ line 1	使用しない/自動選択/3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 1で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	使用しない/自動選択/3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 2で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	使用しない/自動選択/3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 3で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 4	使用しない/自動選択/3/ 4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 4で使用するIRQ番号を設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

PCI設定の設定項目とPCIスロットは、次のように対応しています。

PCI設定の設定項目	ミニタワー型	デスクトップ型	省スペース型
PCI IRQ line 1	PCIスロット#1、 PCIスロット#5	PCIスロット#1	LANボードまたはFAXモ デムボード専用スロット
PCI IRQ line 2	PCIスロット#2	PCIスロット#2	PCIスロット#1
PCI IRQ line 3	PCIスロット#3	PCIスロット#3	PCIスロット#2
PCI IRQ line 4	PCIスロット#4	-	-

NetPCの場合は、LANボードのみ

キャッシュメモリ

本項目の設定は変更しないでください。

周辺機器設定

各種周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
シリアルポートA (シリアルコネクタ またはシリアルコ ネクタ1)	使用しない	シリアルポートAが使用でき なくなり(I/Oロック)、割り 込みが開放されます。
	使用する	I/Oベースアドレスと割り 込みが設定できます。
	自動	I/Oベースアドレスと割り 込みを自動的に設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイ対応OSが I/Oベースアドレスと割り 込みを自動的に設定します。
I/Oベースアドレ ス	3F8/2F8/3E8/2E8	I/Oベースアドレスを設定し ます。
割り込み	IRQ3/IRQ4	割り込み番号を設定します。
シリアルポートB (シリアルコネクタ2)	シリアルポートAと同様です。	工場出荷時は「使用する」 です。省スペース型の場合 は表示されません。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
パラレルポート (パラレルコネクタ)	使用しない	パラレルポートが使用できなくな(I/Oロック)、割り込みが開放されます。
	使用する	パラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割り込み番号を設定できます。
	自動	自動的にパラレルポートを設定します。
	PnP OS	プラグ&プレイ対応OSが自動的に設定します。省スペース型の場合は表示されません。
モード	出力のみ / 双方向 / ECP	モードを設定します。
I/Oベースアドレス	378 / 278 / 3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。
割り込み	IRQ5 / IRQ7	パラレルポートに割り込み番号を設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない / 使用する / 自動	フロッピーディスクドライブの使用を設定します。工場出荷時は、フロッピーディスクドライブおよびNetPCモデルの場合は「使用する」、省スペース型のスーパーディスクドライブのモデルの場合は「使用しない」です。
I/Oベースアドレス	プライマリ / セカンダリ	オプションのフロッピーディスクドライブのI/Oベースアドレスを設定します。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

大容量ディスクアクセスモード

本項目の設定は変更しないでください。

ローカルバスIDEアダプタ

内蔵用のIDEアダプタを使用するかを設定します。工場出荷時は「両方」に設定されています。「プライマリ」ではセカンダリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「セカンダリ」ではプライマリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「使用しない」ではすべてのIDEデバイスが使用できなくなります。(I/Oロック)

ビデオ詳細設定

使用するビデオの設定を行います。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

設定項目	設定内容	説明
グラフィックスアパーチャ	4Mb/8Mb/16Mb/ 32Mb/64Mb/128Mb/ 256Mb	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックスアパーチャサイズを設定します。
ビデオのプライマリ設定	AGP/PCI	使用するビデオデバイスを選択します。PCIスロットにビデオカードが増設されていない場合は「PCI」に設定してもAGPが有効になります。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

クイックブート

「使用する」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「使用する」に設定されています。

サウンド

サウンドのリソースを設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。本項目がない機種もあります。

設定項目	設定内容	説明
サウンド	<input type="checkbox"/> 使用しない	サウンドを切り離します。
	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する	サウンドが使用できます。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

内蔵LAN

「使用しない」を設定すると内蔵LANを切り離します。「使用しない」に設定した場合は、リンクケーブルを接続しないでください。本項目は、MA70J/S、MA55J/S、MA50J/Sの場合に表示されます。

DMIイベントログ

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
イベントログの表示	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
イベントログのクリア	いいえ/はい	「はい」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
イベントログ	使用する/使用しない	「使用する」ではDMIイベントログを記録します。
イベントログの既読設定	はい/いいえ	【Enter】を押し、「はい」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

LANDesk(R) Service()


本体BIOSに標準搭載しているLANDeskService機能の設定を行います。工場出荷時は「使用する」に設定されています。

-  **チェック!!** LANDesk(R)Serviceを使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0が必要です。

Preboot Management()

Preboot Management機能の設定を行います。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

-  **チェック!!** Preboot Management機能を使用するには、管理者側のパソコンに別売のESMPRO/ClientManager Ver3.0以上およびESMPRO/PrebootManager Ver1.0が必要です。

 **参照** 「PART1 本体の構成各部」の「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」(P.91)

セキュリティの設定

セキュリティの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。
項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードの設定状態を表示します。

設定項目	設定内容	説明
スーパーバイザパスワード 設定	設定	スーパーバイザパスワードが設定されています。
	クリア	スーパーバイザパスワードが設定されていません。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

ユーザパスワード()

ユーザパスワードの設定状態を表示します。スーパーバイザパスワードの設定と同様です。

メモ

スーパーバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。

スーパーバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパーバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。「システム設定」の設定項目の右側に()マークが付いている項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。また、「起動時のパスワード」を「使用する」にすることで本機の使用者を制限することができます。

ハードディスクドライブにパスワードを設定した場合は、スーパーバイザパスワードも設定してください。

セキュリティモード

セキュリティモードを選択します。「パスワード」と「スマートカード」と「指紋」が選択できます。工場出荷時は「パスワード」です。

起動時のパスワード

起動時にパスワード入力を行うかの設定をします。「セキュリティモード」が「パスワード」の場合に表示されます。リモートパワーオン機能を利用するときは、「ネットワーク起動時の設定」の「BIOS LOCK」を「使用しない」に設定します。工場出荷時は「使用しない」です。

ハードディスク起動セクタ

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。「書き込み禁止」にすると起動セクタをウイルスから保護します。工場出荷時は「通常動作」です。

フロッピーアクセス


「スーパーバイザ」に設定するとスーパーバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。ただし、スーパーディスクドライブへのアクセスは制限できません。工場出荷時は「スーパーバイザ」です。


ネットワーク起動時の設定()

この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説明
キーボード/マウスロック	使用する/使用しない	「使用する」を選択すると、リモート(PME)起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	使用する/使用しない	「使用しない」を選択すると、「起動時のパスワード」、「スマートカード」または「指紋認証」が設定されていてもリモート(PME)起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定した場合、スマートカードリーダまたは指紋認証ユニットを接続した場合に表示されます。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

 **チェック!!** ここでのリモート(PME)起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPCをリモートにより起動することを指します。

 **参照** リモート(PME)「PART1 本体の構成各部」の「Mate NXセキュリティ/マネジメント機能」(P.91)

ウイルスチェック警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週」、「毎月」の中から選択します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。

システムのバックアップ警告

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「使用しない」、「毎日」、「毎週」、「毎月」の中から選択します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

カバーオープン時の起動制御

「使用する」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。


メモ

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューで以下のI/Oを「使用しない」に設定することでロックを有効にすることができます。(FDDインターフェース、IDEインターフェース(プライマリマスタ/スレーブ)、IDEインタフェース(セカンダリマスタ/スレーブ)、シリアルポートA、シリアルポートB、パラレルポート)

ハードディスクパスワードの設定

ハードディスクドライブにパスワードを設定します。ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。【Enter】を押すとハードディスクマスタパスワードの設定画面が表示され、ハードディスクマスタパスワードを設定すると、ハードディスクユーザパスワードの設定画面が表示されます。次にプライマリマスタの設定を行います。なお、プライマリマスタの設定を変更されないよう、スーパーバイザパスワードを設定してください。本項目は、MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/Cの場合に表示されます。

- ・ ハードディスクマスタパスワード
ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「ハードディスクパスワードをすべて無効にする」をご覧ください。
- ・ ハードディスクユーザパスワード
ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

 **チェック!!** ハードディスクマスタパスワードを設定していないとハードディスクユーザパスワードを設定することはできません。

△注意

設定したパスワードを忘れないように控えておくことをお勧めします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意して下さい。

設定項目	設定内容	説明
プライマリマスタの設定	使用する / 使用しない	ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)へ、ハードディスクユーザパスワードを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

本機(プライマリマスタにインストールされたWindows)を起動する場合、「プライマリマスタの設定」を「使用する」にしても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを入力する必要はありません。

ハードディスクパスワードをすべて無効にする
次の手順でハードディスクドライブのパスワードをすべて無効にしてください。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

参照 ▶ 「PART2 システム設定」の「BIOSセットアップメニューについて」(P.100)

- 2 「セキュリティ」を選ぶ
- 3 「ハードディスクパスワードの設定」を選んで、【Enter】を押す
ハードディスクパスワードの入力画面が表示されます。
- 4 ハードディスクマスタパスワードを入力する
- 5 【Enter】を押す
- 6 【Enter】を押す

手順6の後にセットアップ通知画面が表示されますので、BIOSセットアップメニューの変更を保存して終了してください。
以上でハードディスクドライブのパスワードがすべて無効になります。

パスワードの解除(パスワードを忘れてしまった場合)

本機では、BIOSセットアップメニューの使用者をスーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定、スマートカードリーダまたは指紋認証ユニットの接続により制限することができます(BIOS LOCK)。もし、これらのパスワードを忘れてしまったり、キーとなるスマートカードをなくしてしまった場合のBIOS LOCKの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

- ✓チェック! 無断でパスワードを解除することを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.93)

省電力の設定

省電力管理

本機の省電力管理設定を行います。
項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

省電力()

パワーマネジメントモードを選択します。モードを選択することによって本機のパワーマネジメント設定を変更します。

設定項目	設定内容	説明
省電力	使用しない	パワーマネジメント機能を停止します。
	カスタマイズ 注	自動サスペンドおよびハードディスクのタイムアウト時間をユーザが選択できます。
	最大省電力 注	消費電力を最小限におさえることができます。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 自動サスペンドタイムアウト:5分 ハードディスクタイムアウト:1分
	性能優先	電力をより多く消費しますが、性能は最大限に発揮します。このときのタイムアウト時間は以下の通りです。 自動サスペンドタイムアウト:60分 ハードディスクタイムアウト:15分

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

注 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

自動サスペンドタイムアウト()

本機が自動的にサスペンド状態に移行するまでの時間を設定します。工場出荷時は「オフ」に設定されています。「システムスイッチ」が「パワースイッチ」に設定されている場合もスタンバイします。

ハードディスクタイムアウト()

ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定します。工場出荷時は「使用しない」です。



チェック!! 10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクの電源が切れないこともありますのでご注意ください。

システムスイッチ()

システムスイッチは、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。

電源の管理モード(APMモード/ACPIモード)により、次のようになります。工場出荷時の設定は、電源の管理モードが「APMモード」、システムスイッチが「パワーボタン」に設定されています。

APMモードの場合

- ・「パワーボタン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スリープボタン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

ACPIモードの場合

システムスイッチの設定は無効になり、「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」「電源管理」の「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定が有効になり、次のようになります。ACPIモードに変更直後は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」は「シャットダウン」に設定されています。

- ・「シャットダウン」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を切る/入れることができます。
- ・「スタンバイ」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

システムスイッチの設定を「パワーボタン(工場出荷時の設定)」から「スリープボタン」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

正しく電源を切る方法

- 1 「スタート」ボタン「Windowsの終了」「電源を切れる状態にする」「OK」ボタンをクリック
自動的に電源が切れます。

強制的に電源を切る方法

次の方法で強制的に電源を切ることができます。「方法1」で切れない場合は、「方法2」を行ってください。なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直してWindows 98を起動させ、再度、正しく電源を切ってください。

方法1

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。
- 2 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

方法2

- 1 電源スイッチを4秒以上押し続ける
電源が切れると電源ランプが点灯しなくなります。

入力装置によるレジューム()

「オン」に設定すると入力デバイスによるレジュームを有効にします。工場出荷時は「オン」に設定されています。Windows NT 4.0をご利用の場合は「オフ」に設定してください。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

モデムリングによるレジューム()

「オン」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。なお、この項目は本機でWindows NTをご利用の場合は使用できません。工場出荷時は「オフ」に設定されています。

時刻指定によるレジューム()

「オン」に設定すると、レジューム時刻設定時間で本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「オフ」に設定されています。

レジューム時刻()

レジュームする時刻を設定します。

IDEデバイス0監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス0(プライマリマスタ、工場出荷時に内蔵されている標準ハードディスクドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

IDEデバイス1監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス1(プライマリスレーブ、増設ハードディスクドライブが搭載されたモデルは増設ハードディスクドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

IDEデバイス2監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス2(セカンダリマスタ、CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

IDEデバイス3監視()

「使用する」に設定するとIDEデバイス3(セカンダリスレーブ、5インチベイにスーパーディスクドライブが搭載されているモデルはスーパーディスクドライブ、Zipドライブが搭載されたモデルはZipドライブ)が動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

PCIバス監視()

「使用する」に設定するとPCIバスが動作中にスタンバイ状態へ遷移しないように監視します。工場出荷時は「使用しない」です。省スペース型の場合は、本項目は表示されません。

設定項目	設定内容	説明
バスの使用頻度	0 ~ 255	256クロックサイクル期間に検出されるデータフェーズ数を設定します。0から255までの値が設定できます。
バスの占有時間率	0 ~ 100	スタンバイタイマをリロードするためのバスの占有時間率を設定します。0から100までの値が設定できます。

起動の設定

電源の設定

AC電源投入時の電源状態や、PCIデバイスにより電源を入れるための設定を行います。

項目の右側に()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動した場合のみ変更可能です。

AC投入時の電源状態()

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。工場出荷時のミニタワー型、デスクトップ型は「オフ」、省スペース型は「自動」です。なお、省スペース型の場合はスーパーバイザパスワードで起動した場合のみ変更できます。

設定項目	設定内容	説明
AC投入時の電源状態	オフ	AC投入時に電源がオン(電源は入らない)しない。
	オン	AC投入時に電源がオン(電源が入る)する。
	自動	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

PCIデバイスによる電源オン()

PCIデバイス(LANボード等)による電源オンおよびレジュームを有効にします。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「する」に設定します。工場出荷時は「しない」に設定されています。

メモ

電源オンとは、電源を入れることです。

電源オフとは、電源を切ることです。

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

設定項目	設定内容	説明
1	[取外し可能デバイス]	本機を起動するデバイスの順番を決めます。起動順位1に指定したデバイスから順番に起動されます。
2	[ATAPI CD-ROM]	
3	[ハードディスク]	
4	[ネットワークブート]	
5	[LANDesk(R)Service]	

起動するデバイスを変更するには【 **X** 】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【 + 】を押すとリストの上側に移動し、【 - 】を押すとリストの下側に移動します。

複数のデバイスが存在する「ハードディスク」「取り外し可能なデバイス」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。

ハードディスク()

本機は、起動順位1のハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動します。本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの順序(1,2...)に従い検索を続けます。

取り外し可能なデバイス()

この項目は、取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブなどについて設定します。オペレーティングシステムは、取り外し可能なデバイスにドライブ名を割り当てます。

取り外し可能なフォーマット(この項目はスーパーディスクドライブを搭載している装置のみ表示)()

取り外し可能なデバイスに挿入されているメディアのフォーマットが、ハードディスクか、取り外し可能デバイスかを設定します。

セットアップ情報画面

「使用する」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「使用しない」に設定されています。



SCSI設定

この章では、SCSI SELECTについて説明します。SCSI SELECTは、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)を搭載しているモデルのユーティリティで、Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)に対してさまざまな設定を行うものです。

この章の読み方

「SCSI SELECTについて」を読んだ後に、「SCSI SELECTでの設定項目」をお読みください。

この章の内容

SCSI SELECTについて	124
SCSI SELECTでの設定項目	125



SCSI SELECTについて

Ultra SCSIインタフェースボード（Wide対応）PC-M-SCUWS2が標準で内蔵されているモデルでは、Ultra SCSIインタフェースに対してさまざまな設定を行うためのユーティリティとして、SCSI SELECTが搭載されています。ここではSCSI SELECTの使用方法や注意事項を説明します。

SCSI SELECTでの設定が必要な場合

SCSI SELECTを使用して設定することが必要になるのは次の場合です。

接続されているSCSI機器のSCSI IDを変更した場合

使用するSCSI機器を増設・変更した場合

これらの場合、SCSI SELECTを使用して、データ転送に関する設定変更や、使用するSCSI機器によっては低レベルフォーマットを行う必要があります。

SCSI SELECTを使用するときの注意

- SCSI SELECTを使用して設定を変更するためには、SCSIに関する知識を必要とすることが多数あります。設定する内容を十分理解した上で変更してください。間違った設定を行うと、データの破壊や本体が起動しないなどのトラブルの原因となります。
- SCSI SELECTで可能なデータ転送に関する設定は、接続しているSCSI機器の種類、台数、総ケーブル線長によって変わります。これらの制限に関しては、『ハードウェア拡張ガイド』PART5 付録の「別売のSCSIインタフェース機器の増設」をご覧ください。
- ディスク装置に低レベルフォーマットを行う場合は、誤って他のSCSI機器をフォーマットしてしまわないように注意してください。ディスク装置を低レベルフォーマットすると、すべてのデータが消えてしまいます。
- 内蔵Ultra SCSIインタフェースボードを持つ本機に別売のSCSIボードを実装して使用することはできません。



参照 SCSIボードのBIOSの起動について 「SCSI SELECTでの設定項目」(P.125)

SCSI SELECTでの設定項目

ここではSCSI SELECTで設定可能なすべての項目について説明します。

SCSI SELECTの設定項目一覧と初期設定

SCSI SELECTで設定できる項目と、その工場出荷時の設定値は次の通りです。また、SCSI SELECTでは低レベルフォーマットとディスクのペリファイを行うことができます。

SCSI SELECTの機能		工場出荷時の設定 Ultra SCSI(Wide対応)
SCSIボードの設定	ボードのSCSI ID設定	7
	パリティ機能の有効/無効設定	Enabled(有効)
	終端機能設定	Automatic(自動)
	起動チャンネルの設定	A First
	起動SCSI IDを指定	0
	起動LUNを指定	0
デバイスの設定	転送速度の設定	40.0MB/Sec
	Wide転送の有効/無効設定	Yes(有効)*
	ディスクコネクタの有効/無効設定	Yes(有効)
	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	No(無効)
	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	N/C(無効)
	マルチプルLUNの有効/無効設定	No(無効)
SCSIボードの拡張設定	BIOSスキャンの有効/無効設定	Yes(有効)
	SCAMの有効/無効設定	Disabled(無効)
	SCSIバスリセットの有効/無効設定	Enabled(有効)
	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	Enabled(有効)
	1GB以上デバイスサポートの有効/無効設定	Enabled(有効)
	Verbose/Silent設定	Verbose
	BIOSの有効/無効設定	Enabled(有効)
	リムーバブルディスク設定	Boot Only(起動デバイスのみ)
	起動CD-ROM機能有効/無効設定	Enabled(有効)
	INT13サポートの有効/無効設定	Enabled(有効)
フォーマット/ ペリファイ	低レベルフォーマット	
	ディスクのペリファイ	

工場出荷時の設定は通常使用する上で、推奨する設定になっています。

(*を除く)

*は接続するSCSI機器によって設定を変更する必要があります。

SCSI SELECTの画面の説明

SCSI SELECTの画面はすべて英語で表示されます。ここではSCSI SELECTを起動して表示される各画面に対して次のように説明しています。

画面名称

【 OPTION 選択画面 】

表示画面

AAAA-29XX XXXX at Bus:xxh Device:xxh

Would you like to configure the host adapter, or run the SCSI disk utilities? Select the option and press<Enter>.
Press<F5> to switch between color and monochrome mode.

Options

Configure/View Host Adapter Settings I
SCSI Disk Utilities II

キー操作

【 ↑ ↓ 】を使用して、変更したい設定を反転させて【 Enter 】を押してください。

< 選択肢 >

I ボードの設定を行う。 [コンフィグレーション画面] P.129へ
II フォーマット/ベリファイを行う。 ② [ディスクユーティリティ起動画面] P.144へ
【 ESC 】 前の画面に戻る。 [ユーティリティ終了確認画面] P.144へ

選択肢

画面説明

画面説明

- ・ Configure/View Host Adapter Settings (ホストアダプタ設定) -この項目を選択するとボードの各設定を変更する項目画面が表示されます。
- ・ SCSI Disk Utilities (SCSI ディスクユーティリティ) -この項目を選択すると、接続されているSCSIインタフェース機器に対して低レベルフォーマットを行う、またはベリファイを行う画面が表示されます。

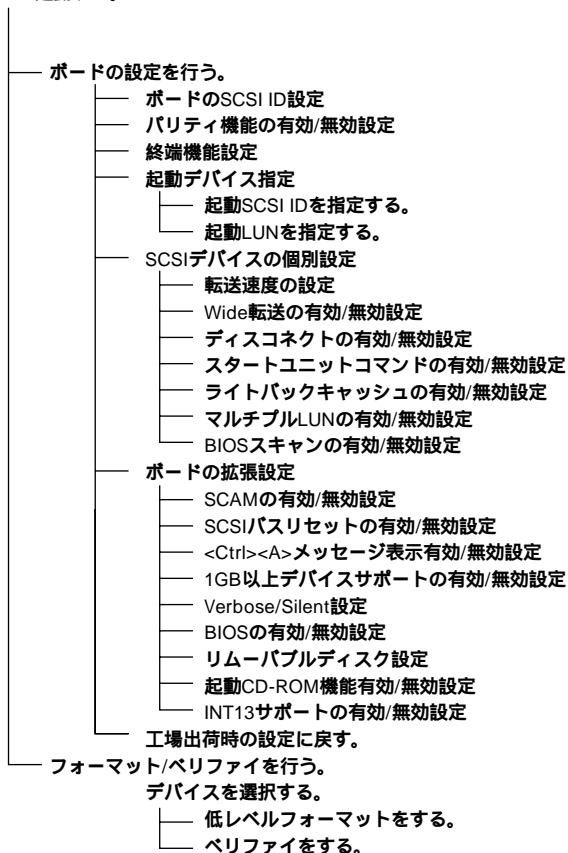
各部の説明

- 画面名称** : 説明が書かれている各画面の説明です。
- 表示画面** : SCSI SELECTを起動し、操作したときにディスプレイに表示される画面(一部)です。
- キー操作** : 表示画面で行うキー操作について説明しています。
- 選択肢** : 画面で選択可能な選択肢を選択した場合、次にどの画面説明に進めばよいかを示す画面名称を記述しています。
- 画面説明** : 画面に表示されている選択肢の説明をしています。

SCSI SELECTの構造

SCSI SELECTは次のような階層構造になっています。設定や処理を行う場合はSCSI SELECTを起動し、下図を参照して各設定項目の画面へ移動してください。

SCSI SELECTを起動する。



SCSI SELECTを起動する

1 本体の電源を入れる

「NEC」のロゴ画面が表示した後に、次の画面が表示されます。

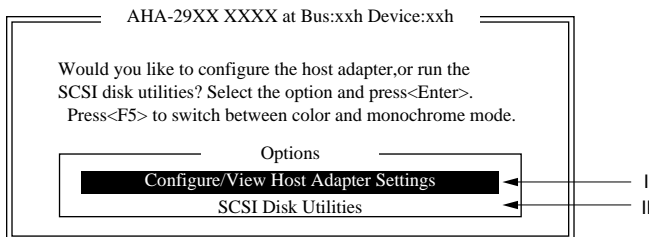
```
Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx
(c)1998 Adaptec, Inc. All Right Reserved
```

Press<Ctrl><A>for SCSI Select (TM) Utility!

2 【Ctrl】を押しながら【A】を押す

SCSI SELECTが起動し、次の画面が表示されます。もし、画面が表示されずOSが起動してしまった場合は、OSを正常終了した後にシステムを再起動させ、少し早めに【Ctrl】を押しながら【A】を押してください。

【SCSI SELECT起動画面】



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

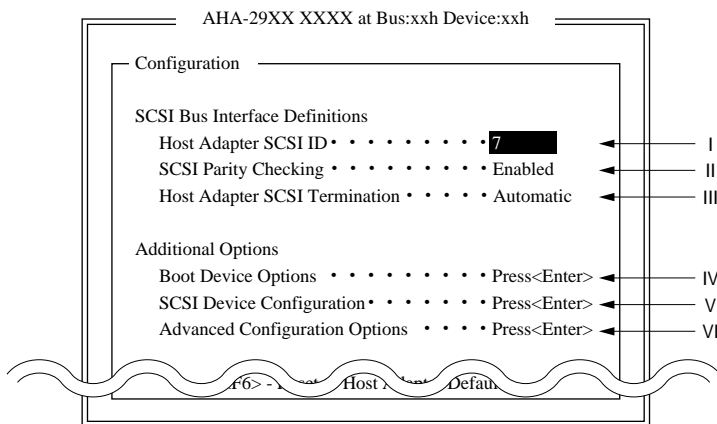
<選択肢>

- | | | |
|----|------------------|---------------------------|
| I | ボードの設定を行う。 | 【コンフィグレーション画面【P.129】へ |
| II | フォーマット/ベリファイを行う。 | ②【ディスクユーティリティ起動画面【P.144】へ |
| | 【ESC】前の画面に戻る。 | 【ユーティリティ終了確認画面【P.144】へ |

画面説明

- ・ Configure/View Host Adapter Settings(ホストアダプタ設定)- この項目を選択するとボードの各設定を変更する項目画面が表示されます。
- ・ SCSI Disk Utilities(SCSIディスクユーティリティ)- この項目を選択すると、接続されているSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行う、またはベリファイを行う画面が表示されます。
- ・ 【F5】を押すとモノクロモードとカラーモードを切り換えることができます。

[コンフィグレーション画面]



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。工場出荷時の設定に戻す場合は【F6】を押してください。

< 選択肢 >

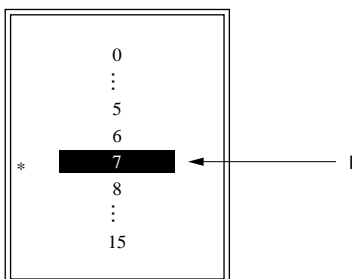
I	ボードのSCSI ID設定	[ボードのSCSI ID設定画面] (P.130)へ
II	パリティ機能の有効/無効設定	[パリティ有効/無効設定画面] (P.131)へ
III	終端機能設定	[終端機能設定画面] (P.131)へ
IV	起動デバイス指定	[起動コンフィグレーション起動画面] (P.132)へ
V	SCSIデバイスの個別設定	[SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.134)へ
VI	ボードの拡張設定	[拡張設定画面] (P.139)へ
	【F6】工場出荷時の設定に戻す。	[初期設定変更画面] (P.143)へ
	【ESC】前の画面に戻る。	[SCSI SELECT起動画面] (P.128)へ
	【ESC】設定の保存(設定変更した場合)	[設定保存画面] (P.143)へ

画面説明

- Host Adapter SCSI ID(ホストアダプタSCSI ID)- この項目を選択するとボードのSCSI IDを変更する画面が表示されます。
工場出荷時の設定はSCSI ID#7に設定されています。これはSCSIバスの中でボードが最も高い優先順位を持つ設定です。このまま変更しないで使用することを推奨します。

- SCSI Parity Checking(SCSIパリティチェック)- この項目を選択するとボードのパリティチェック機能を有効(Enabled)/ 無効(Disabled)に設定する画面が表示されます。
パリティチェックは、SCSIバス上のデータ転送が正確に行われたかをチェックする機能です。ボードにパリティ機能をサポートしないSCSIデバイスを接続する場合は、無効にしてください。ほとんどのSCSIデバイスは、パリティ機能をサポートしています。SCSIデバイスがサポートしているかわからない場合は、SCSIデバイスの説明書を参照してください。
- Host Adapter SCSI Termination(ホストアダプタSCSIターミネーション)- この項目を選択すると、ボードの終端状態を変更する画面が表示されます。本機のボードのターミネーション設定は、Automatic(自動)のままにしてください。
- Boot Device Options(ブートデバイスオプション)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスを指定する画面が表示されます。
- SCSI Device Configuration(SCSIデバイスコンフィグレーション)
- この項目を選択すると、ボードと接続しているSCSIデバイス間の設定を行う画面が表示されます。
- Advanced Configuration Options(アドバンスドコンフィグレーションオプション)- この項目を選択すると、ボードの拡張設定の変更を行う画面が表示されます。

[ボードのSCSI ID設定画面]



【 I 】 を使用して、変更したい値を反転させて**【Enter】**を押してください。

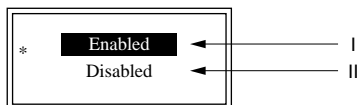
< 選択肢 >

- | | | |
|-------|-------------------|---------------------------|
| I | ボードのSCSI ID設定を行う。 | [コンフィグレーション画面] (P.129)へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [コンフィグレーション画面] (P.129)へ |

画面説明

画面に表示されている0~15の値はボードに設定可能なSCSI IDです。
ここで、値を選択することによりボードのSCSI IDを変更します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[パリティ有効/無効設定画面]

【 I 】を使用して、変更したい値を反転させて【Enter】を押してください。

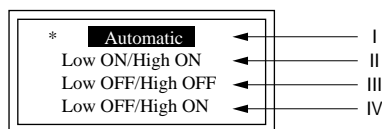
< 選択肢 >

- | | | |
|-------|---------------|-----------------------------|
| I | パリティ機能を有効にする。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| II | パリティ機能を無効にする。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |

画面説明

パリティチェック機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[終端機能設定画面]

【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|-------|----------------|-----------------------------|
| I | 自動に設定する。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| II | すべて有効にする。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| III | すべて無効にする。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| IV | 上位8ビットだけ有効にする。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |

画面説明

終端設定を自動にする場合は、Automaticを選択してください。

終端設定をすべて有効にする場合は、Low ON/High ONを選択してください。

終端設定をすべて無効にする場合は、Low OFF/High OFFを選択してください。

終端設定をデータビットの上位8ビットのみ有効にする場合は、Low OFF/High ONを選択してください。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

・ 終端設定について

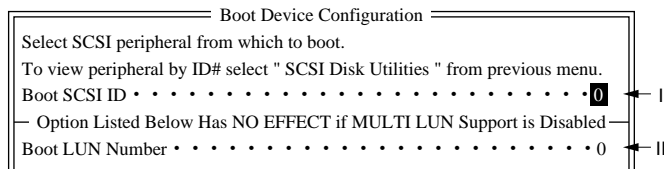
SCSIインタフェースは電送路の両端を終端する必要があります。お使いのボードにより、下記のコネクタがあります。これらのコネクタに接続するSCSIデバイスの構成により終端設定は変わります。Automatic以外の設定を行う場合は以下の表を参照して正しく終端設定を行ってください。

コネクタ 終端設定	内蔵Wide コネクタ	内蔵Narrow コネクタ	外付け コネクタ
Low ON/High ON		-	-
	-		-
	-	-	
Low OFF/High ON			-
	-		
Low OFF/High OFF		-	

: SCSIデバイスを接続している - : SCSIデバイスを接続しない

Automaticの設定にすると、ボードが自動的にSCSIデバイスの接続状況を判断して、適した終端設定を行います。

[起動コンフィグレーション起動画面]



【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

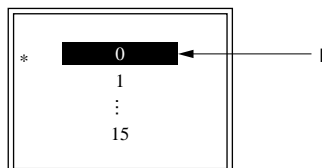
< 選択肢 >

- | | | |
|----|-----------------|-----------------------------|
| I | 起動SCSI IDを指定する。 | [起動SCSI ID設定画面]へ |
| II | 起動LUNを指定する。 | [起動LUN設定画面] [P.134]へ |
| | [ESC] 前の画面へ戻る。 | [コンフィグレーション画面] [P.129]へ |

画面説明

- Boot SCSI ID(ブートSCSI ID)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを指定する画面が表示されます。
ここで選択されたSCSI IDは起動デバイスで構成されたIDと対応している必要があります。
- Boot LUN Number(ブートLUNナンバー)- この項目を選択すると、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を指定する画面が表示されます。
起動デバイスに複数のLUNを持っている場合は、起動させたいSCSIデバイスのLUNを指定する必要があります。
(このとき、Multiple LUN Supportが有効になっている必要があります。)

[起動SCSI ID設定画面]



【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

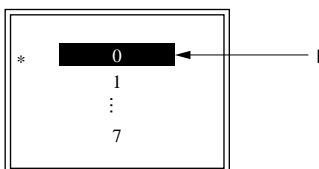
- | | | |
|---|-------------------|---------------------------------|
| I | 起動するSCSI IDを選択する。 | [起動コンフィグレーション起動画面] [P.132]へ |
| | [ESC] 前の画面へ戻る。 | [起動コンフィグレーション起動画面] [P.132]へ |

画面説明

画面に表示されている0~15の中から、起動させたいSCSIデバイスのSCSI IDを選択します。

- * 工場出荷時の設定値を表しています。

[起動LUN設定画面]



【 **↑** 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

↑ 起動するLUNを選択する。 [起動コンフィグレーション起動画面 (P.132)へ]
 【ESC】前の画面へ戻る。 [起動コンフィグレーション起動画面 (P.132)へ]

画面説明

画面に表示されている0~7の中から、起動させたいSCSIデバイスのLUN(Logical Unit Numbers)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[SCSIデバイスコンフィグレーション画面]

SCSI Device Configuration										
SCSI Device ID	#0	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7		
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	←	I
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	II
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	III
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	IV
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	←	V
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled										
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	←	VI
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	VII
SCSI Device ID	#8	#9	#10	#11	#12	#13	#14	#15		
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	←	I
Initiate Wide Negotiation	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	II
Enable Disconnection	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	III
Send Start Unit Command	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	IV
Enable Write Back Cache	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	N/C	←	V
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled										
BIOS Multiple LUN Support	No	No	No	No	No	No	No	No	←	VI
Include in BIOS Scan	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	←	VII

【 **↑** 】 【 **↓** 】を使用して、接続されているSCSIデバイスのSCSI IDに対応した設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

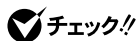
I	転送速度の設定	[転送速度設定画面] (P.137)へ
II	Wide転送の有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.137)へ
III	ディスクコネクットの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.137)へ
IV	スタートユニットコマンドの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.137)へ
V	ライトバックキャッシュの有効/無効設定	[デバイス有効/無効/変化なし選択画面] (P.138)へ
VI	マルチプルLUNの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.137)へ
VII	BIOSスキャンの有効/無効設定	[デバイス有効/無効選択画面] (P.137)へ
	【ESC】前の画面に戻る。	[コンフィグレーション画面] (P.129)へ

画面説明

設定可能なデータ転送方式、データバス幅、転送速度は次の通りです。

SCSIインタフェース		ユーティリティで設定可能な値			
		転送方式	データバス幅 [単位：ビット]	転送速度 [単位：MB / 秒]	
Wide	Ultra SCSI	非同期	8	---	*
			16	---	*
		同期	8	20.0	10.0
				16.0	8.0
			16	13.4	6.7
				5.0	5.0
	SCSI-2	非同期	8	---	*
			16	---	*
		同期	8	10.0	6.7
			16	8.0	5.0
Narrow *2	Ultra SCSI	非同期	8	---	*
			8	20.0	10.0
		同期	16.0	8.0	
			13.4	6.7	
	SCSI-2	非同期	8	---	*
			8	10.0	6.7
		同期	8.0	5.0	
			8.0	5.0	

* 転送方式を「非同期」に設定した場合、転送速度を設定してもその値は無効となります。



チェック!

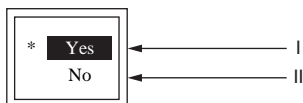
- ・接続するSCSI機器がどのインタフェースに該当するかは、お使いのSCSI機器に添付されているマニュアルをご覧ください。
- ・接続するSCSI機器がどのSCSIインタフェースに該当するSCSI機器であるか不明の場合は、「Narrow」でかつ「SCSI-2」インタフェース機器として設定を行ってください。

- Sync Transfer Rate(最大同期転送速度)- この項目を選択すると、ボードとデバイス間の最大同期転送速度を設定する画面が表示されます。
- Initiate Wide Negotiation(Wide転送の取り決め)- この項目を選択すると、Wide転送機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
Wide転送を行う(Yes)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して16ビットの幅でデータ転送を行います。
Wide転送を行わない(No)設定にしている場合は、ボードはデバイスに対して8ビットの幅でデータ転送を行います。
Wide転送するには、接続されているSCSIデバイスがWideに対応している必要があります。
Wideデバイスに対しては、有効(Yes)/無効(No)どちらでも設定が可能ですが、Narrowデバイスに対しては、必ず無効(No)に設定してお使いください。
- Enable Disconnection(ディスコネクトを有効にする)- この項目を選択すると、ディスコネクト機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
ディスコネクトを行う設定になっているとSCSIデバイスが一時的に切り離され、その間ボードはSCSIバスを使い、他の操作を行うことができます。
- Send Start Unit Command(スタートユニットコマンドを送る)- この項目を選択すると、スタートユニットコマンド機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
ほとんどのデバイスでこのような設定を行う必要はありません。
スタートユニットコマンドを送る(Yes)設定にしている場合は、本機の起動時、ボードがコマンドを送ることによって接続しているSCSIデバイスが1台ずつ電源ONとなります。これにより本機の電源にかかる負荷を軽減します。
スタートユニットコマンドを送らない(No)設定にしている場合は、本機の起動時に接続されているSCSIデバイスすべてが一緒に電源ONになります。
この機能を使用するためには、接続するSCSIデバイスもこの機能に対応していなくてはなりません。
- Enable Write Back Cache(ライトバックキャッシュを有効にする)
- この項目を選択すると、ライトバックキャッシュ機能の有効(Yes)/無効(No)/変化なし(N/C)を設定する画面が表示されます。

- BIOS Multiple LUN Support(BIOSマルチプルLUNサポート)- この項目を選択すると、マルチプルLUNサポート機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。起動デバイスに複数のLUNがある場合は、この設定を有効にする(Yes)にしてください。
- Include in BIOS Scan(BIOSスキャン)- この項目を選択すると、BIOSスキャン機能の有効(Yes)/無効(No)を設定する画面が表示されます。
BIOSスキャンを行わない(No)設定にすると、BIOSを使用しているOS上からデバイスが認識されなくなります。
BIOSスキャンを行う(Yes)設定で使用することを推奨します。

✓チェック!! イメージスキャナ、DATユニットを接続する場合は、イメージスキャナ、DATユニットに接続しているSCSI ID番号に対応した「 Include in BIOS Scan 」の設定を、必ず「 No 」に設定してください。

[デバイス有効/無効選択画面]



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて**【 Enter 】**を押してください。

< 選択肢 >

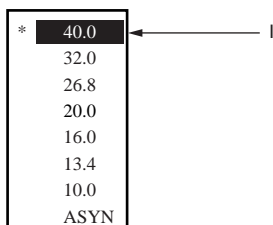
- | | | |
|----|-------------------------|-------------------------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.134)へ |
| II | 設定を無効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.134)へ |
| | 【 ESC 】 変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] (P.134)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Yes)、無効(No)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[転送速度設定画面]



【 X 】を使用して、変更したい転送速度の値を反転させ、【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|-------|------------|-----------------------------------|
| I | 転送速度を選択する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |

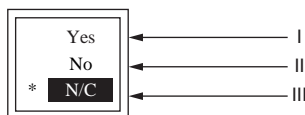
画面説明

画面に表示されている転送速度の中から、デバイスに設定可能な範囲内で値を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

 **チェック!!** データバス幅の設定によって、設定できる転送速度が変わります。

[デバイス有効/ 無効/ 変化なし選択画面]



【 X 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|-------|-------------|-----------------------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |
| II | 設定を無効にする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |
| III | 設定を変化なしにする。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |
| 【ESC】 | 変更を中止する。 | [SCSIデバイスコンフィグレーション画面] P.134 \へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Yes)、無効(No)、変化なし(N/C)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[拡張設定画面]

Advanced Configuration Options	
Plug and Play SCAM Support	Disabled ← I
Reset SCSI Bus at IC Initialization	Enabled ← II
Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization	Enabled ← III
Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte	Enabled ← IV
Verbose/Silent Mode	Verbose ← V
Options Listed Below Have NO EFFECT if the BIOS is Disabled	
Host Adapter BIOS	Enabled ← VI
Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks	Boot Only ← VII
BIOS Support for Bootable CD-ROM	Enabled ← VIII
BIOS Support for Int13 Extensions	Enabled ← IX

【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

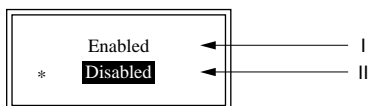
< 選択肢 >		
I	SCAMの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
II	SCSIバスリセットの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
III	<Ctrl><A>メッセージ表示有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
IV	1GB以上サポートの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
V	Verbose/Silentの有効/無効設定	[Verbose/Silent選択画面] (P.141)へ
VI	BIOSの有効/無効設定	[BIOSの有効/無効設定画面] (P.141)へ
VII	リムーバブルディスク設定	[リムーバブルディスク設定画面] (P.142)へ
VIII	起動CD-ROM機能有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
IX	INT13サポートの有効/無効設定	[オプション有効/無効選択画面] (P.141)へ
【ESC】変更を中止する。		[コンフィグレーション画面] (P.129)へ

画面の説明

- Plug and Play SCAM Support (SCAM機能サポート) - この項目を選択すると、SCAM機能の有効 (Enabled) / 無効 (Disabled) を設定する画面が表示されます。
SCAM機能を使用する (Enabled) に設定した場合、ボードに接続されているSCSIデバイスのID番号が自動的に設定されます。
ただし、この機能を使用するためには、接続したSCSIデバイスがSCAM機能に対応していません。
- Reset SCSI Bus at IC Initialization (SCSIバスリセット時のIC初期化) - この項目を選択すると、SCSIバスリセット時のIC初期化機能の有効 (Enabled) / 無効 (Disabled) を設定する画面が表示されます。
この機能は、Plug and Play SCAM Support設定でSCAM機能を使用する設定にした場合必ず、有効 (Enabled) に設定してください。
SCAM機能を使用しない場合は、無効 (Disabled) に設定してください。

- Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization(Ctrl-Aメッセージの表示)- この項目を選択すると、起動時に「 Press<Ctrl><A> for SCSI Select(TM)Utility! 」メッセージを表示する機能の有効(Enabled)無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。起動時に「 Press<Ctrl><A>for SCSI Select(TM)Utility! 」を表示しない(Disabled)設定にしても、起動時に【 Ctrl 】を押しながら【 A 】を押すとユーティリティは起動します。
- Extended BIOS Translation for DOS Drives > 1 GByte(DOSで1GB以上のドライブ使用)- この項目を選択すると、1GB以上の大容量デバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)無効(Disabled)を設定することができます。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。
- Verbose/Silent Mode(起動時のバナー表示)- この項目を選択すると、起動時に「 Adaptec AHA-29XX XXXX BIOS v x.xx... 」のメッセージを表示する機能の有効(Verbose)無効(Silent)を設定する画面が表示されます。起動時にメッセージを表示しない(Silent)を設定しても、起動時に【 Ctrl 】を押しながら【 A 】を押すとユーティリティは起動します。
- Host Adapter BIOS(ホストアダプタBIOS)- この項目を選択すると、SCSI-BIOSの有効(Enabled)無効(Disabled:NOT scan)無効(Disabled:scan bus)を設定することができます。この機能を無効(Disabled:NOT scan)無効(Disabled:scan bus)にすると、ボードに接続されているSCSIデバイスからの起動はできなくなります。無効(Disabled:NOT scan)にすると、scan busも無効になります。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。
- Support Removable Disks Under BIOS as Fixed Disks(リムーバブルディスクサポート)- この項目を選択すると、BIOS上でのリムーバブルディスクの認識設定を変更する画面が表示されます。
- BIOS Support for Bootable CD-ROM(起動CD-ROMのBIOSサポート)- この項目を選択すると、CD-ROMドライブ起動機能の有効(Enabled)無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。
- BIOS Support for Int13 Extensions(BIOSのINT13サポート)- この項目を選択すると、BIOSが1024シリンダより大きい容量のデバイスを使用可能にする機能の有効(Enabled)無効(Disabled)を設定する画面が表示されます。この設定は、有効(Enabled)のまま使用することを推奨します。

[オプション有効/無効選択画面]



【 I 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

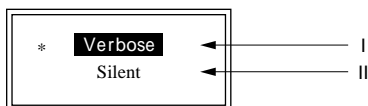
< 選択肢 >	
I	選択した機能を有効にする。 [拡張設定画面【P.139】へ
II	選択した機能を無効にする。 [拡張設定画面【P.139】へ
【ESC】変更を中止する。 [拡張設定画面【P.139】へ	

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。変更したいモードによって異なります。

[Verbose/Silent選択画面]



【 I 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

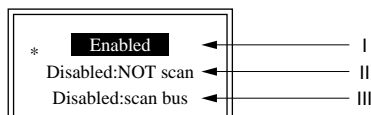
< 選択肢 >	
I	メッセージを表示(Verbose)に設定する。 [拡張設定画面【P.139】へ
II	メッセージを表示しない(Silent)に設定する。 [拡張設定画面【P.139】へ
【ESC】変更を中止する。 [拡張設定画面【P.139】へ	

画面説明

前の画面で選択した機能のVerbose、Silentを選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[BIOSの有効/無効設定画面]



【 X 】を使用して、変更したい設定を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

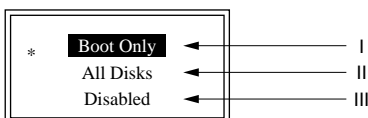
- | | | |
|---------------|----------------------|---------------------|
| I | 設定を有効にする。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| II | 設定を無効、scan bus無効にする。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| III | 設定を無効、scan bus有効にする。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| 【ESC】変更を中止する。 | | [拡張設定画面] P.139)へ |

画面説明

前の画面で選択した機能の有効(Enabled)、無効(Disabled)を選択します。

* 工場出荷時の設定値を表しています。

[リムーバブルディスク設定画面]



【 X 】を使用して、変更したいモードを反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

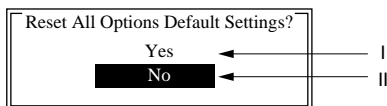
- | | | |
|---------------|-----------------------------|---------------------|
| I | 起動デバイスのみハードディスクに設定する。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| II | 全てのリムーバブルディスクをハードディスクに設定する。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| III | 無効に設定する。 | [拡張設定画面] P.139)へ |
| 【ESC】変更を中止する。 | | [拡張設定画面] P.139)へ |

画面説明

- 起動デバイスとして指定されるリムーバブルデバイスだけを、ハードディスクとして認識させる場合は、Boot Only(起動のみ)を選択してください。
 - BIOSがサポートするすべてのリムーバブルデバイスをハードディスクとして認識させる場合は、All Disk(ディスクすべて)を選択してください。
 - リムーバブルディスクをハードディスクとして認識させない場合は、Disabled(無効)を選択してください。この設定を行うと、リムーバブルディスクを認識させるために、ソフトウェアのドライバが必要となります。
- * 工場出荷時の設定値を表しています。

- ✓チェック!!** ハードディスクとして認識させた場合は、リムーバブルディスクの媒体を取り出さないでください。

[初期設定変更画面]



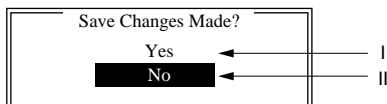
【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >	
I	工場出荷時の設定に戻す。 [コンフィグレーション画面] (P.129)へ
II	変更を中止する。 [コンフィグレーション画面] (P.129)へ

画面説明

すべての設定を工場出荷時の設定に戻す(Yes)、変更を中止する(No)のどちらかを選択してください。

[設定保存画面]



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

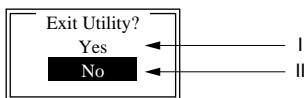
< 選択肢 >	
I	変更した設定を保存する。 [SCSI SELECT起動画面] (P.128)へ
II	変更した設定を保存しない。 [SCSI SELECT起動画面] (P.128)へ

画面説明

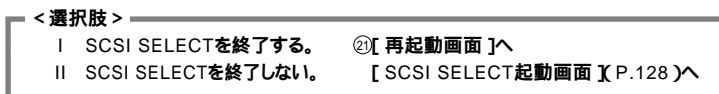
変更した値を保存する(Yes)、中止する(No)のどちらかを選択してください。

中止する(No)を選択すると、変更した設定はすべて変更前に戻ります。

[ユーティリティ終了確認画面]



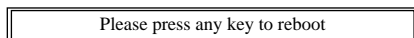
【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。



画面説明

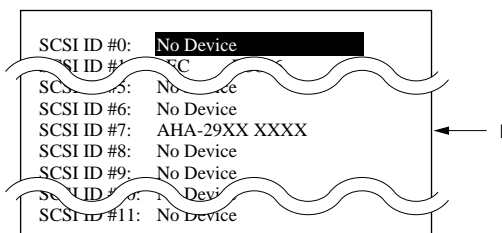
SCSI SELECTを終了する(Yes) 終了しない(No)を選択してください。

②1 [再起動画面]



このメッセージが画面に表示されたら、【Enter】を押してください。本体が再起動し、設定が有効になります。

②2 [ディスクユーティリティ起動画面]



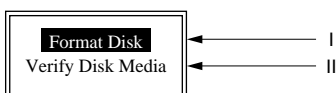
【 I 】を使用して、処理を行いたいSCSIデバイスを反転させて【Enter】を押してください。このとき、デバイスは、デバイス名称ではなく、必ず設定されているSCSI ID設定を元にして選択してください。(本ボードに対してフォーマットまたはペリファイ処理を行うことはできません。)



画面説明

ボードに接続されているSCSIデバイスの一覧をSCSIデバイスが返す情報を元に表示しています。(SCSI ID #7: AHA-29XX XXXXは本ボードを示しています。)

接続しているSCSIデバイスの種類や、ボードの設定によって表示内容が異なります。また、ここで表示されるSCSIデバイスの名称は、使用している製品名と一致しないことがあります。

⑳[フォーマット/ベリファイ選択画面]

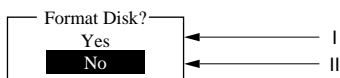
【 I 】を使用して、行いたい処理項目を反転させて**【 Enter 】**を押してください。

< 選択肢 >

- | | | |
|----|------------|------------------------|
| I | フォーマットをする。 | ㉔[フォーマット確認画面1]へ |
| II | ベリファイをする。 | ㉔[ベリファイ確認画面](P.147)へ |

画面説明

- Format Disk(フォーマットディスク)- この項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対して低レベルフォーマットを行うことができます。
- Verify Disk Media(ベリファイディスクメディア)- この項目を選択すると、指定したSCSIデバイスに対してベリファイを行うことができます。

㉔[フォーマット確認画面1]

【 I 】を使用して、項目を反転させて**【 Enter 】**を押してください。

< 選択肢 >

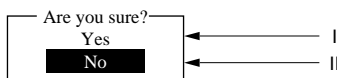
- | | | |
|----|--------------|------------------------------|
| I | フォーマットをする。 | ㉔[フォーマット確認画面2](P.146)へ |
| II | フォーマットを中止する。 | ㉔[ディスクユーティリティ起動画面](P.144)へ |

画面説明

低レベルフォーマット処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。本当に低レベルフォーマットを行うデバイスであることを確認の上、フォーマットを行う(Yes) 中止する(No)のどちらかを選択してください。

- ☑ **チェック!** ・フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
・フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②5 [フォーマット確認画面2]



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

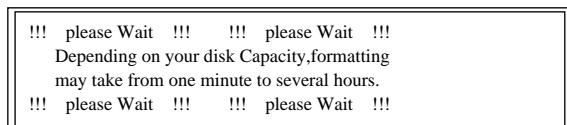
- | | | |
|----|--------------|----------------------------------|
| I | フォーマットをする。 | ②5 [フォーマット中画面]へ |
| II | フォーマットを中止する。 | ② [ディスクユーティリティ起動画面] [P.144]へ |

画面説明

再度、低レベルフォーマットを行うかどうかを確認を求めてきますので、再度、SCSI ID、デバイス情報、そして容量等を確認の上、フォーマット処理を行う(Yes) 処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

- ☑ **チェック!** ・フォーマットを行うと、ディスク上のすべてのデータは消されてしまいます。
・フォーマット中は、本体およびSCSI機器の電源を切らないでください。

②6 [フォーマット中画面]




フォーマットが終了すると、②7 [フォーマット終了画面]が表示されます。

画面説明

低レベルフォーマットが開始されます。そのまま、しばらくお待ちください。

接続されているSCSIデバイスの容量によって数分から数時間かかることがあります。

⑳[フォーマット終了画面]

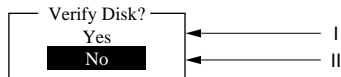


何かキーを押すと㉔[ディスクユーティリティ起動画面【P.144】へ戻ります。

画面説明

低レベルフォーマットが正常に終了するとフォーマットは完了しました(Formatting Complete)と表示されます。

㉑[ベリファイ確認画面]



【 I 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

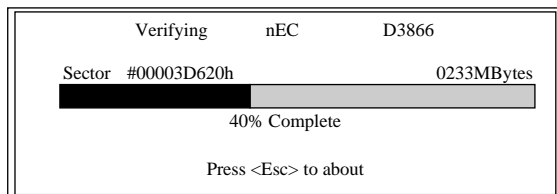
- I ベリファイをする。 ㉒[ベリファイ中画面]へ
- II ベリファイを中止する。 ㉓[ディスクユーティリティ起動画面【P.144】へ

画面説明

ベリファイ処理を行うSCSI ID、デバイス情報そして容量が上部に表示されます。

ベリファイ処理を行うか再度確認してきますので、ベリファイ処理を行う(Yes)、処理を中止する(No)のどちらかを選択してください。

㉒[ベリファイ中画面]



【Esc】を押すと処理を中止することができます。

ベリファイが終了すると㉓[ベリファイ終了画面]が表示されます。

< 選択肢 >


【ESC】処理を中止する。

⑳[ベリファイ中止確認画面]へ

画面説明

ベリファイ処理が開始されます。画面中央のバーが右へ進んで行き、実施状況を画面に表示しています。

㉑[ベリファイ終了画面]



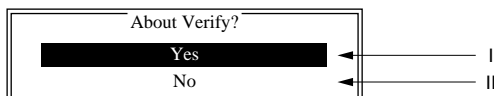
Disk Verification Complete

何かキー押すと㉒[ディスクユーティリティ起動画面](P.144)に戻ります。

画面説明

ベリファイが正常に終了すると、ディスク調査は完了しました(Disk Verification Complete)と表示されます。

㉓[ベリファイ中止確認画面]



【 X 】を使用して、項目を反転させて【Enter】を押してください。

< 選択肢 >

I ベリファイを中止する。

㉒[ディスクユーティリティ起動画面](P.144)へ

II ベリファイを続行する。

㉓[ベリファイ中画面](P.147)へ

画面説明

ベリファイ処理中止を行うか再度確認を求めてくるので、ベリファイを中止する(Yes)、ベリファイを続行する(No)のどちらかを選択してください。

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧	150
割り込みレベル・DMAチャンネル	166
本機のお手入れ	167

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧



MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、MA50T/A、MA50T/C本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名	MA73T/C	MA60T/C	MA53T/C	MA50T/C	MA50T/A(Securityモデル)	
CPU	CPU種別		Intel®Pentium®IIIプロセッサ			
	クロック周波数		733MHz	600EBMHz	533EBMHz	500EMHz
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB			
		二次	256KB			
システムバス		133MHz(メモリバス:100MHz)				
メモリー	BIOS ROM(Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応			
	メインRAM		最大512MB DIMMSロット×2			
	ディスプレイキャッシュ		4MB			
	ビデオRAM		メインRAMと共有して使用(メインRAMから8~11MB占有)			
表示機能	サウンドアクセラレータ		Intel® 810E Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)			
	グラフィック表示		640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)			
サウンド機能		YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備				
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ またはスーパーディスクドライブ		3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応)×1			
	ハードディスクドライブ		UltraATA対応、SMART機能対応			
	出荷時ソフトウェア占有量		アプリケーションなしモデル:約730MB Office 2000 Personalモデル:約1,090MB Office 2000 Professionalモデル:約1,130MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,460MB (搭載するメモリの容量により異なります)			
	光ディスク関連					
		CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速			
	CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速				

機種名		MA73T/C	MA60T/C	MA53T/C	MA50T/C	MA50T/A(Securityモデル)	
インタ フェース	ディスプレイ	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)ミニD-sub15ピン				
		デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)DFP20ピン				
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン(MA50T/Aは指紋認証ユニットを接続)					
	パラレル	D-sub25ピン					
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)					
	サウンド関連	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db				
		出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)				
	通信関連	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能				
		FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ				
	入力関連	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続				
		USB小型キーボード					
		USB98配列キーボード					
		PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続				
	PCIスロット [空き]	2スロット(ハーフサイズ×2) [2] (SCSIインタフェースボード搭載時はハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済) [1]					
	ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済) [0]				
内蔵3.5型ベイ [空き]		1スロット(標準ハードディスクドライブで占有済) [0]					
5型ベイ [空き]		1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブで占有済) [0]					
カレンダー時計	電池によるバックアップ						
セキュリティ/ マネジメント 機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」「pcAnywhere 9.0 EX」「CyberAccess」標準添付					
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、OFF state Alert II機能					
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知、セキュリティハードディスク対応(MA50T/Aは指紋認証ユニットなどを添付)					
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応					
	温湿度条件	10 ~ 35、20 ~ 80%(但し結露しないこと)					
消費電力	本体標準構成時	約28W(最大57W)					
	省電力時	約18W以下					
	エネルギー消費効率	R区分 0.011	R区分 0.014	R区分 0.015	R区分 0.016		
外形寸法	本体	305(H) × 320(D) × 86(W)mm(ゴム足、突起部除く) 316(H) × 320(D) × 155(W)mm(スタビライザ(縦置き台) 使用時)					
	キーボード						
	USB109キーボード	39(H) × 178(D) × 471(W)mm					
	USB小型キーボード	40(H) × 178(D) × 370(W)mm					
	USB98配列キーボード	39(H) × 178(D) × 471(W)mm					
質量	PS/2 109キーボード	32(H) × 163(D) × 467(W)mm					
	本体	約6.9Kg					
	キーボード						
	USB109キーボード	約1.2Kg					
	USB小型キーボード	約1.0Kg					
USB98配列キーボード	約1.2Kg						
PS/2 109キーボード	約650g						



MA60J/C、MA55J/C、MA50J/C 本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA60J/C	MA55J/C	MA50J/C
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®III プロセッサ		
	クロック周波数	600MHz	550MHz	500MHz
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	512KB	
	システムバス	100MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大512MB DIMMスロット×2		
	ディスプレイキャッシュ	4MB		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから8~11MB占有)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810E Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ またはスーパーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)		
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速		
	CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速		
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMD5)、DFP20ピン		
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
	出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)		
	通信関連			
LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能			
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機能モジュラーコネクタ			

機種名		MA60J/C	MA55J/C	MA50J/C	
インタ フェース	入力関連	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
		USB小型キーボード			
		USB98配列キーボード			
		PS/2 109キーボード			
PCIスロット[空き]		2スロット(ハーフサイズ×2)【2】、(SCSIインタフェースボード搭載時はハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)【1】			
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済)【0】			
	内蔵3.5型ベイ[空き]	1スロット(標準ハードディスクドライブで占有済)【0】			
	5型ベイ[空き]	1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブで占有済)【0】			
カレンダー時計		電池によるバックアップ			
セキュリティ/ マネジメント 機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」 「CyberAccess」標準添付			
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、OFF state Alert II機能			
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーファカバーオープン検知			
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応			
	温湿度条件	10~35℃、20~80%(但し結露しないこと)			
消費電力	本体標準構成時	約31W(最大60W)			
	省電力時	約19W以下			
	エネルギー消費効率	R区分	0.014	R区分	0.016
外形寸法	本体	305(H)×320(D)×86(W)mm(ゴム足、突起部除く) 316(H)×320(D)×155(W)mm(スタビライザ(縦置き台)使用時)			
	キーボード				
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm			
	USB98配列キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm			
質量	本体	約6.9Kg			
	キーボード				
	USB109キーボード	約1.2Kg			
	USB小型キーボード	約1.0Kg			
	USB98配列キーボード	約1.2Kg			
	PS/2 109キーボード	約650g			



MA46H/C、MA46H/Z本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA46H/C	MA46H/Z(NetPCモデル)	
CPU	CPU種別	Intel®Celeron™プロセッサ		
	クロック周波数	466MHz		
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	128KB	
システムバス	66MHz(メモリバス:100MHz)			
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	最大512MB DIMMスロット×2		
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから10~13MB占有)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能	YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応)×1	_____	
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応	_____	
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)	_____	
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速	_____	
CD-RWドライブ	内蔵 読み込み: CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み: CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速	_____		
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン		
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDS)、DFP20ピン		
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン		
	パラレル	D-sub25ピン		
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)		
	サウンド関連			
	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db		
出力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33) ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)			
通信関連				
LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能			
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ			

機種名	MA46H/C		MA46H/Z(NetPCモデル)
インタ フェース	入力関連		
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
	USB小型キーボード		
	USB98配列キーボード		
PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		
	保守用FDDコネクタ		管理者用外付けFDドライブを接続
PCIスロット [空き]	2スロット(ハーフサイズ×2 [2]、(SCSIインタフェースボード搭載時は、ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)で占有済) [1]		2スロット(ハーフサイズ×1、ハーフサイズ×1 (保守用FDDコネクタで占有済) [1]
ファイルベイ	3.5型ベイ [空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済 [0]	
	内蔵3.5型ベイ [空き]	1スロット(標準ハードディスクドライブで占有済 [0]	
	5型ベイ [空き]	1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブで占有済 [0]	
カレンダー時計	電池によるバックアップ		
セキュリティ/ マネジメント 機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」,「CyberAccess」標準添付	
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視	
	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知	
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件	10~35℃、20~80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約29W(最大58W)	約28W(最大57W)
	省電力時	約19W以下	
	エネルギー消費効率	R区分 0.035	R区分 0.033
外形寸法	本体	305(H)×320(D)×86(W)mm(ゴム足、突起部除く) 316(H)×320(D)×155(W)mm(スタビライザ(縦置き台)使用時)	
	キーボード		
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB98配列キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm	
質量	本体	約6.8Kg	約5.7Kg
	キーボード		
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	USB98配列キーボード	約1.2Kg	



MA46H/L 本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名	MA 4 6H/L		
CPU	Intel®Celeron™プロセッサ(466MHz)		
	内蔵キャッシュメモリ	一次 32KB	
		二次 128KB	
システムバス	66MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM	最大512MB DIMMSロット×2	
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから10~13MB占有)	
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)	
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)	
サウンド機能	YAMAHA社製YMF752搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 8~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ またはスーパーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1、またはスーパーディスクドライブ(4モード対応)×1	
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応	
		出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)
	光ディスク関連		
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速	
CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速		
インタフェース	ディスプレイ		
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
		デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMD5)、DFP20ピン
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン	
	パラレル	D-sub25ピン	
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)	
	サウンド関連		
	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db	
		ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
	出 力	ヘッドホン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33)	
ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)			
通信関連			
LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能		
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		

機種名	MA46H/L			
インタ フェース	入力関連			
	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
	USB小型キーボード			
	USB98配列キーボード			
PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続			
PCIスロット	空き]	2スロット(ハーフサイズ×2] 2]		
ファイルベイ	3.5型ベイ	空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブまたはスーパーディスクドライブで占有済] 0]	
	内蔵3.5型ベイ	空き]	1スロット(標準ハードディスクドライブで占有済] 0]	
	5型ベイ	空き]	1スロット(CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブで占有済] 0]	
カレンダー時計	電池によるバックアップ			
セキュリティ/ マネジメント	運用管理機能	「CyberAccess」標準添付		
	障害管理機能	—		
機能	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック		
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応		
	温湿度条件	10 ~ 35 °C、20 ~ 80%(但し結露しないこと)		
	消費電力	本体標準構成時	約29W(最大58W)	
外形寸法	本体	省電力時	約19W以下	
		エネルギー消費効率	R区分 0.037	
	キーボード	本体	305(H) × 320(D) × 86(W)mm(ゴム足、突起部除く)	
		キーボード	316(H) × 320(D) × 155(W)mm(スタビライザ(縦置き台) 使用時)	
		USB109キーボード	39(H) × 178(D) × 471(W)mm	
		USB小型キーボード	40(H) × 178(D) × 370(W)mm	
USB98配列キーボード		39(H) × 178(D) × 471(W)mm		
PS/2 109キーボード	32(H) × 163(D) × 467(W)mm			
質量	本体	本体	約6.8Kg	
		キーボード		
	キーボード	USB109キーボード	約1.2Kg	
		USB小型キーボード	約1.0Kg	
		USB98配列キーボード	約1.2Kg	
		PS/2 109キーボード	約650g	



MA70J/S、MA55J/S、MA50J/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA70J/S	MA55J/S	MA50J/S	
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®IIIプロセッサ			
	クロック周波数	700MHz	550MHz	500MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB		
		二次	256KB	512KB	
	システムバス	100MHz(メモリバス:100MHz)			
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応			
	メインRAM	ECC機能対応 最大512MB DIMMスロット×2			
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)			
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応)			
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)			
サウンド機能	YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 5~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカ装備				
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1			
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応			
	出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)			
	光ディスク関連				
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速			
	CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速			
	インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン			
	デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン			
	シリアル				
	コネクタ1	最大115,200bps、D-sub9ピン			
	コネクタ2	最大115,200bps、D-sub9ピン			
	パラレル	D-sub25ピン			
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)			
	サウンド関連				
	入力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db			
	出力	ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)			
	通信関連				
	100BASE-TX/10BASE-T LANコネクタ	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能			
	FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機能用モジュラーコネクタ			

機種名		MA70J/S	MA55J/S	MA50J/S	
インタ フェース	入力関連	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
		USB小型キーボード			
		USB98配列キーボード			
		PS/2 109キーボード			
PCIスロット[空き]		キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続 3スロット(フルサイズ×3(FAXモデムボードで占有あり))【3】or【2】、(SCSIインタフェース ボード搭載時はフルサイズ×2(Ultra SCSIインタフェースボード(Wide対応)で占有済)、 フルサイズ×1(FAXモデムボードで占有あり))【2】or【1】			
AGPスロット[空き]		1スロット(ウインドウアクセラレータボードで占有済)【0】			
ファイルベイ	3.5型ベイト[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済)【0】			
	内蔵3.5型ベイト[空き]	2スロット(標準ハードディスクドライブで1スロットで占有済)【1】、(増設ハードディスク搭載時は2 スロット占有済)【0】			
	5型ベイト[空き]	2スロット(CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブで1スロット占有済)【1】、(Zipドライブまたはス ーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済)【0】			
カレンダー時計		電池によるバックアップ			
セキュリティ/ マネジメント 機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」 「CyberAccess」標準添付			
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能			
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーファカバーオープン検知			
環境条件		電源 AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応			
		温湿度条件 10~35、20~80%(但し結露しないこと)			
消費電力	本体標準構成時	約32W(最大165W)	約34W(最大165W)		
	省電力時	約16W以下	約17W以下		
	エネルギー消費効率	R区分 0.010	R区分 0.013	R区分 0.014	
外形寸法	本体	139.5(H)×394(D)×430(W)mm			
	キーボード				
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm			
	USB98配列キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm			
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm			
質量	本体	約9.2Kg			
	キーボード				
	USB109キーボード	約1.2Kg			
	USB小型キーボード	約1.0Kg			
	USB98配列キーボード	約1.2Kg			
	PS/2 109キーボード	約650g			



MA46H/S本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA46H/S	
CPU	Intel®Celeron™プロセッサ(466MHz)		
	内蔵キャッシュメモリ	一次 32KB	
		二次 128KB	
システムバス	66MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM	最大256MB DIMMスロット×2	
	ビデオRAM	メインRAMと共有して使用(メインRAMから10~13MB占有)	
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	Intel® 810 Chipsetに内蔵(AGP相当、DVMアーキテクチャ採用)	
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大256色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)	
サウンド機能 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート7~48KHz)、全二重対応、ソフトウェアサウンド機能			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1	
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応	
		出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)
	光ディスク関連		
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速	
CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速		
インタフェース	ディスプレイ		
	アナログRGB	アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
		デジタルRGB	デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン
	シリアル	最大115,200bps、D-sub9ピン	
	パラレル	D-sub25ピン	
	MIDI/Joystic	D-sub15ピン	
	USB	2(本体正面×1、本体背面×1)	
	サウンド関連	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db
			出 力
		通信関連	
	LANボード	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
FAXモデムボード	電話回線用モジュラーコネクタ、電話機能用モジュラーコネクタ		
入力関連			
USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続		
USB小型キーボード			
USB98配列キーボード			
PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続		

機種名	MA46H/S	
PCIスロット[空き]	3スロット(フルサイズ×2、ハーフサイズ×1(LANポートまたはFAXモデムボードで占有済)【2】、(SCSIインタフェースボード搭載時はフルサイズ×1、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)、ハーフサイズ×1(LANポートまたはFAXモデムボードで占有済)【1】)	
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済【0】)
	内蔵3.5型ベイ[空き]	2スロット(ハードディスクドライブで1スロット占有済【1】、(増設ハードディスク搭載時は2スロット占有済【0】)
	5型ベイ[空き]	2スロット(CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブで1スロット占有済【1】、(Zipドライブまたはスーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済【0】)
カレンダー時計	電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」,「pcAnywhere 9.0 EX」,「CyberAccess」標準添付
機能	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPUファン監視
	セキュリティ機能	スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知
環境条件	電源	AC100V ± 10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応
	温湿度条件	10 ~ 35 °C、20 ~ 80%RH(但し結露しないこと)
消費電力	本体標準構成時	約45W(最大165W)
	省電力時	約22W以下
	エネルギー消費効率	R区分 0.041
外形寸法	本体	139.5(H)×394(D)×430(W)mm
	キーボード	
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm
	USB98配列キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm
質量	本体	約9.0Kg
	キーボード	
	USB109キーボード	約1.2Kg
	USB小型キーボード	約1.0Kg
	USB98配列キーボード	約1.2Kg
	PS/2 109キーボード	約650g



MA60J/M、MA50J/M本体機能仕様

表中の は、ご購入時に選択いただいたモデル構成により異なります。

機種名		MA60J/M	MA50J/M	
CPU	CPU種別	Intel®Pentium®IIIプロセッサ		
	クロック周波数	600MHz	500MHz	
	内蔵キャッシュメモリ	一次	32KB	
		二次	512KB	
	システムバス	100MHz(メモリバス:100MHz)		
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)	512KB、プラグ&プレイ対応		
	メインRAM	ECC機能対応 最大768MB DIMMSロット×3		
	ビデオRAM	8MB(SDRAM)		
表示機能	ウィンドウアクセラレータ	S3社製Savage4™ PRO搭載(AGP対応)		
	グラフィック表示	640×480ドット 最大1,677万色 800×600ドット 最大1,677万色 1,024×768ドット 最大1,677万色 1,280×1,024ドット 最大1,677万色 1,600×1,200ドット 最大1,677万色 (使用するディスプレイにより表示解像度は異なります)		
サウンド機能		YAMAHA社製YMF740C搭載 PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート 5~48KHz)、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)、内蔵モノラルスピーカー装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)×1		
	ハードディスクドライブ	UltraATA対応、SMART機能対応		
		出荷時ソフトウェア占有量	アプリケーションなしモデル:約710MB Office 2000 Personalモデル:約1,070MB Office 2000 Professionalモデル:約1,110MB 一太郎10・花子10パック & 1-2-3 2000モデル:約1,440MB (搭載するメモリの容量により異なります)	
	光ディスク関連			
	CD-ROMドライブ	内蔵 最大40倍速		
CD-RWドライブ	内蔵 読み込み:CD-ROM/CD-Rは最大24倍速、CD-RWは最大8倍速 書き込み:CD-Rは最大4倍速、CD-RWは2倍速			
インタフェース	ディスプレイ			
	アナログRGB		アナログRGBセパレート信号出力(75 アナログインタフェース)、ミニD-sub15ピン	
	デジタルRGB		デジタルフラットパネル信号出力(TMDs)、DFP20ピン	
	シリアル			
	コネクタ1		最大115,200bps、D-sub9ピン	
	コネクタ2		最大115,200bps、D-sub9ピン	
	パラレル		D-sub25ピン	
	USB		2(本体正面×1、本体背面×1)	
	サウンド関連	入 力	マイク入力:モノラル、ミニジャック、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600、マイク感度-48db ライン入力:ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10K、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6db	
			出 力	ライン出力:ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47K)
通信関連				
LANポート		RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能、OFF state Alert II機能		
FAXモデムポート		電話回線用モジュラーコネクタ、電話機用モジュラーコネクタ		

機種名	MA60J/M		MA50J/M
インタ フェース	入力関連	USB109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続
		USB小型キーボード	
		USB98配列キーボード	
	PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
PCIスロット[空き]	5スロット(フルサイズ×4、ハーフサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)【4】)、(SCSIインタフェースボード搭載時はフルサイズ×3、ハーフサイズ×1(Ultra SCSIインタフェースボード Wide対応)で占有済)、ハーフサイズ×1(LANボードまたはFAXモデムボードで占有済)【3】)		
AGPスロット[空き]	1スロット(ウインドウアクセラレータボードで占有済【0】)		
ファイルベイ	3.5型ベイ[空き]	1スロット(フロッピーディスクドライブで占有済【0】)	
	内蔵3.5型ベイ[空き]	2スロット(標準ハードディスクドライブで1スロット占有済【1】)、(増設ハードディスクドライブ搭載時は2スロット占有済【0】)	
	5型ベイ[空き]	3スロット(CD-ROMまたはCD-RWドライブで1スロット占有済【2】)、(Zipドライブまたはスーパーディスクドライブ搭載時は2スロット占有済【1】)	
カレンダー時計	電池によるバックアップ		
セキュリティ/ マネジメント 機能	運用管理機能	「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)」、「pcAnywhere 9.0 EX」、「CyberAccess」標準添付	
	障害管理機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能、OFF state Alert II機能	
	セキュリティ機能	スーパーバイザパスワード、ユーザパスワード、筐体ロック、ルーフカバーオープン検知	
環境条件	電源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	湿度条件	10~35%、20~80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時	約35W(最大217W)	
	省電力時	約16W以下	
	エネルギー消費効率	R区分 0.012	R区分 0.014
外形寸法	本体	452(H)×440(D)×211(W)mm	
	キーボード		
	USB109キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	USB小型キーボード	40(H)×178(D)×370(W)mm	
	USB98配列キーボード	39(H)×178(D)×471(W)mm	
	PS/2 109キーボード	32(H)×163(D)×467(W)mm	
質量	本体	約16.1Kg	
	キーボード		
	USB109キーボード	約1.2Kg	
	USB小型キーボード	約1.0Kg	
	USB98配列キーボード	約1.2Kg	
	PS/2 109キーボード	約650g	

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長 注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注 リピータの台数など、条件によって異なります。

FAXモデムボード機能仕様

FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
	適用回線	加入電話回線
	同期方式	半二重調歩同期方式
	通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps 注
	通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
	変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps DPSK:4800/2400bps FSK:300bps
	送信レベル	-10~-15dBm(出荷時:15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)
データモデム機能	適用回線	加入電話回線
	同期方式	全二重調歩同期方式
	通信速度	送受信:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps 注 受信のみ:56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33333/ 32000/30667/29333/28000bps 注
	通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
	変調方式	TCM: 56000/54667/54000/53333/52000/50667/50000/49333/ 48000/46667/46000/45333/44000/42667/42000/41333/ 40000/38667/38000/37333/36000/34667/34000/33600/ 33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM: 9600/7200bps DPSK: 4800/2400/1200bps FSK: 1200/300bps
	エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)MNP class4
	データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
	送信レベル	-10~-15dBm(出荷時:15dBm)
	受信レベル	-10~-40dBm
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠
NCU機能	適用回線	加入電話回線
	ダイヤル方式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
	NCU形式 注	AA (自動発信 / 自動着信型) MA (手動発信 / 自動着信型) MM (手動発信 / 手動着信型) AM (自動発信 / 手動着信型)
	制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(CLASS1)

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

ATコマンド

ATコマンドについては、『ATコマンド(電子化マニュアル)』をご覧ください。

割り込みレベル・DMAチャネル

工場出荷時の割り込みレベルは、次の通りです。

割り込み優先順位	割り込みデバイス		
	MA73T/C、MA60T/C、MA53T/C、 MA50T/A、MA50T/C、MA60J/C、 MA55J/C、MA50J/C、MA46H/C、 MA46H/Z、MA46H/L	MA70J/S、MA55J/S、 MA50J/S、MA60J/M、 MA50J/M	MA46H/S
IRQ00	カウンタおよびタイマ		
IRQ01	PS/2接続キーボード		
IRQ02	割り込みコントローラ		
IRQ03	(空)		
IRQ04	シリアルポートA		
IRQ05	(空)	LANまたはFAX	
IRQ06	フロッピーディスクドライブ		
IRQ07	パラレルポート		
IRQ08	リアルタイムクロック		
IRQ09	サウンド(シェア)	USBおよびサウンド (シェア)	USB
IRQ10	LANまたはFAX、 およびグラフィック	LANまたはFAX	サウンド
IRQ11	USB	グラフィック	
IRQ12	PS/2接続マウス		
IRQ13	数値演算コプロセッサ		
IRQ14	プライマリIDE		
IRQ15	セカンダリIDE		

IRQ04を別のI/O機器に変更する場合は、BIOSのシリアルポートAの設定を変更してIRQ04を解放してください。

参照 「PART2 システム設定」詳細の設定」の「周辺機器設定 (P.107) MA46H/S
の場合は『本機をお使いの方へ』の「Peripheral Setupの設定」

工場出荷時のDMAチャネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ幅	システムリソース
0	8または16ビット	(空)
1	8または16ビット	(空)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空)
4		DMAコントローラ
5	16ビット	(空)
6	16ビット	(空)
7	16ビット	(空)

省スペース型のスーパーディスク搭載モデルは、「(空)」になります。

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠ 注意



感電注意

お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



発火注意

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。

電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

本体

布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

本体の内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先 『メンテナンス&サポートのご案内』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。



フロッピーディスクドライブ、スーパーディスクドライブ、CD-RWドライブ、CD-ROMドライブ
クリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。「スーパーディスクドライブのクリーニング」(P.169)

キーボード

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先 『メンテナンス&サポートのご案内』または『NEC PCあんしんサポートガイド』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

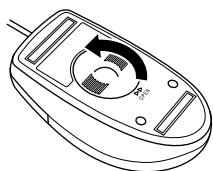
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。「マウスのクリーニング」(次ページ)

- ✓チェック!!** ・水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

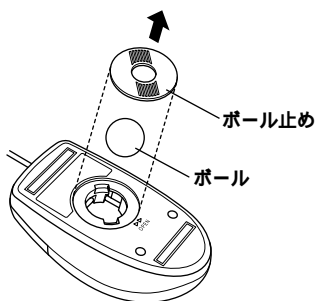
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4~6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

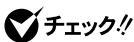
7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やほみがき粉などを付けないでください）。



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定



チェック!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

スーパーディスクドライブのクリーニング

スーパーディスクドライブでフロッピーディスクを使用していると、ヘッドが汚れ、読み書き時にエラーが発生する場合があります。万一、ご使用中にエラーが発生した場合には、スーパーディスクドライブ専用のクリーニングキットを使用してください。

推奨クリーニングキット

イメージン株式会社製:LS-120HCL

フロッピーディスクドライブ用のクリーニングディスクなどを使用すると、ヘッドが摩耗し、障害を招く場合がありますのでご注意ください。



活用ガイド ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate NX

(Windows 98 インストールモデル)

二版 2000年1月

NEC

P



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙(古紙率:表紙50%、本文100%)を使用しています。